

令和元年度

足立区の学校保健統計書

令和2年12月

足立区教育委員会
学校運営部 学務課

目 次

1 児童生徒の発育状態	
(1) 身体測定（身長・体重）の平均値	1
(2) 肥満度集計	3
2 貧血・小児生活習慣病予防健診	
(1) 小児生活習慣病予防健診	7
(2) 貧血検査	13
巻末【資料1】貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準	38
3 定期健康診断疾病異常調査	
(1) 定期健康診断の受診状況	14
(2) 四肢異常	14
(3) 視力検査	15
(4) 聴力検査	16
(5) アレルギー性疾患	17
(6) 結核検診	21
(7) 心臓疾患検診	22
(8) 尿検査（腎臓検診・糖尿病検診）	23
(9) 歯科健診	25
巻末【資料2】定期健康診断疾病異常調査の概要	39
【資料3】定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計	42
4 脊柱側弯症検診	
脊柱側弯症検診結果	30
5 就学時健康診断	
就学時健康診断結果	31
6 児童生徒の感染症り患状況	
(1) 調査の概要	32
(2) 月別患者数	32
(3) 過去3年間の主な感染症り患状況	33
7 学校管理下における災害統計	
(1) 災害発生状況	34
(2) 災害共済掛金および給付状況	37

令和元年度 学校保健統計報告書概要

1 児童生徒の発育状態「小・中ともに肥満傾向児が多い」

- (1) 肥満傾向（肥満度20%以上）の割合は、小学1年生を除き、男女ともに全国・東京都の割合より高かった。【P3～P6】
- (2) 痩身傾向（肥満度-20%以下）の割合は、男女とも全国・東京都の割合より概ね低かった。【P3～P5】

2 貧血・小児生活習慣病予防健診（中2）「4.4人に1人が有所見※」

- (1) 総合判定結果は、男子の5.6人に1人、女子の3.7人に1人が有所見者だった。女子は減少したが、男子は増加した。【P7】
- (2) 血圧が「やや高め」以上の割合は、男子は3.5人に1人、女子は4.0人に1人であり、前年度より割合が減少した。【P10】
- (3) 血清脂質検査では、女子の5.3人に1人が有所見者だった。前年度と比較すると男子は横ばいであり、女子は減少した。【P11】
- (4) ヘモグロビンA1c検査では、5.6%以上の割合が12.6人に1人に減少した。【P12】
- (5) 貧血検査では、有所見者が女子は16.1人に1人と男子より多い。割合は男女とも横ばいである。【P13】

※ 有所見とは正常・管理不要以外の診断だったもの。

3 むし歯・歯肉「むし歯の被患率は、小学生は年々減少傾向にある」

- (1) むし歯のある割合は、中学2・3年生を除き、東京都平均を上回っていた。全体の年次推移は、小学生は年々減少し、中学生は前年度から微増した。【P25・P26】
- (2) むし歯の未処置者の割合は、男女とも小学生では東京都平均を上回っていたが、中学生では東京都平均を下回っていた。【P25】
- (3) 歯肉に所見のある児童生徒の割合は、中学1年生女子を除き、男女ともに東京都平均を上回っていた。特に小学生は東京都平均を大幅に上回った学年が多かった。【P27】

4 視力・聴力検査

「裸眼視力1.0未満の割合は女子に多い」

- (1) 学年が上がるにつれ、裸眼視力0.3未満の割合が増えていた。【P15】
- (2) すべての学年において、男子よりも女子のほうが、裸眼視力1.0未満の割合が多かった。【P15】
- (3) 聴力検査による難聴者の割合は、全体で0.6%程度と前年度と比べると横ばいであった。【P16】

5 アレルギー性疾患「アレルギー性鼻疾患が最も多く10.4人に1人」

- (1) アレルギー性眼疾患・鼻疾患・皮膚疾患被患率は、すべての学年で東京都平均より少なかった。気管支喘息は、東京都平均を下回る学年が多かった。【P17～P20】
- (2) アレルギー性眼疾患・鼻疾患、気管支喘息は、全ての学年で女子よりも男子の被患率が高かった。アレルギー性皮膚疾患は、小学1年生、中学2年生以外は男子の被患率が高かった。【P17～P20】

6 感染症のり患者数「インフルエンザは小・中ともに減少」

- (1) インフルエンザは12月から2月にかけてり患者数が多い。12月をピークに1・2月は過去2年間の同時期に比べ大きく減少した。【P32・33】
- (2) 溶連菌感染症のり患者数は増加した。【P33】

7 学校管理下でのけが等の災害発生件数は「100人に3人程度」

- (1) 学校でのけがなどの災害発生件数および発生率は、小学生・中学生ともに横ばいであった。【P34】
- (2) 小学生では休憩中の災害、中学生では体育の授業中・課外指導での災害が多かった。【P35】

※1 新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年3月に一斉臨時休業措置をとった。

※2 数字の単位未満は四捨五入を原則とした。
したがって、合計と内訳の計の数字が一致しない場合がある。

1 児童生徒の発育状態

(1) 身体測定（身長・体重）の平均値

東京都および全国の平均値と比較すると、身長・体重ともに大差はみられないが、体重はすべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。

表1 全国・東京都との比較

	区分		身長 (cm)			体重 (kg)		
	年齢	性別	足立区	東京都	全国	足立区	東京都	全国
小学 生	小1	男子	116.7	117.0	116.5	21.7	21.6	21.4
		女子	115.7	116.1	115.6	21.0	21.0	20.9
	小2	男子	122.9	123.2	122.6	24.6	24.5	24.2
		女子	121.6	121.8	121.4	23.7	23.4	23.5
	小3	男子	128.6	128.6	128.1	27.8	27.4	27.3
		女子	127.7	127.6	127.3	27.0	26.5	26.5
	小4	男子	134.2	133.9	133.5	31.8	30.6	30.7
		女子	133.6	133.4	133.4	30.4	29.8	30.0
	小5	男子	139.6	139.8	139.0	35.4	34.9	34.4
		女子	140.5	140.6	140.2	35.0	34.3	34.2
	小6	男子	145.6	145.6	145.2	39.8	38.9	38.7
		女子	147.1	146.9	146.6	40.2	38.7	39.0
中学 生	中1	男子	153.5	153.3	152.8	45.6	44.1	44.2
		女子	152.2	152.0	151.9	44.8	43.2	43.8
	中2	男子	160.6	160.5	160.0	50.2	49.8	49.2
		女子	154.9	155.6	154.8	48.1	47.2	47.3
	中3	男子	165.2	165.9	165.4	55.4	54.6	54.1
		女子	156.7	156.9	156.5	51.1	49.9	50.1

図1 全国・東京都との比較

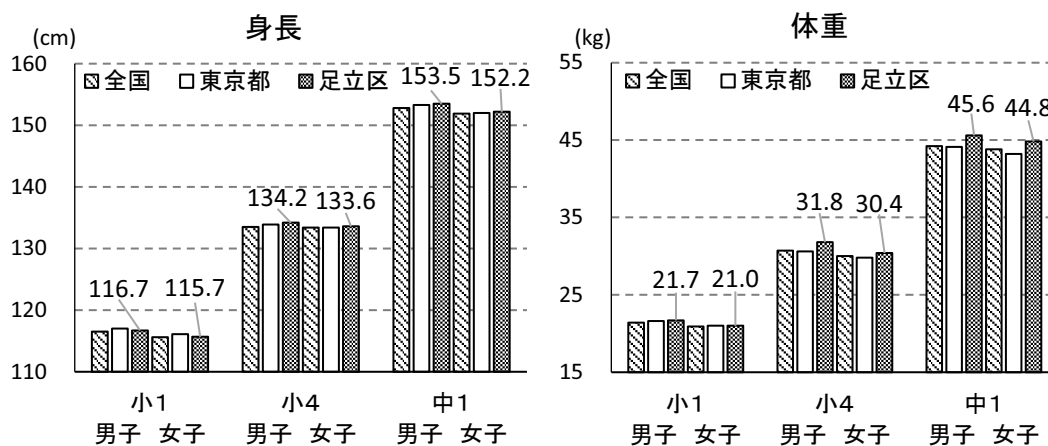


表2 年次推移 【身長の平均値】

単位 (cm)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R1年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R1年度
小1	117.0	116.9	116.9	116.8	116.8	116.7	116.2	115.9	115.9	115.8	115.4	115.7
小3	128.5	128.3	128.4	128.6	128.5	128.6	125.0	127.6	127.7	127.4	127.6	127.7
小5	139.4	139.5	139.2	139.2	139.2	139.6	139.3	140.3	140.1	140.5	140.5	140.5
中1	152.6	153.2	152.9	152.7	153.4	153.5	152.3	152.4	152.5	152.0	152.2	152.2
中3	165.7	165.6	165.3	165.5	165.8	165.2	157.1	156.9	156.7	156.5	156.8	156.7

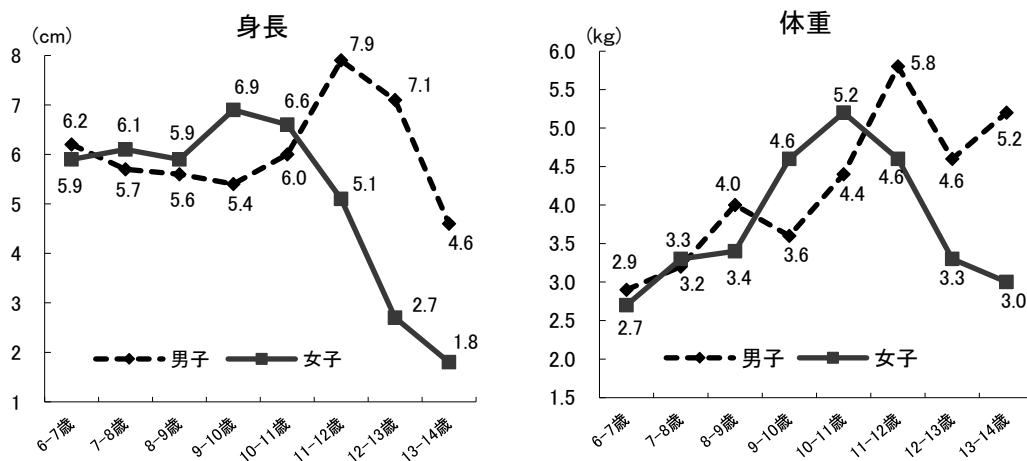
表3 年次推移 【体重の平均値】

単位 (kg)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R1年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R1年度
小1	22.0	21.9	22.0	21.7	21.8	21.7	21.6	21.4	21.2	21.0	20.9	21.0
小3	28.0	28.1	27.9	27.6	27.5	27.8	28.5	27.2	27.0	26.7	26.9	27.0
小5	35.6	36.0	35.8	34.4	34.6	35.4	36.4	35.6	34.9	34.5	34.7	35.0
中1	45.5	46.3	45.9	45.0	45.2	45.6	45.8	45.6	45.3	44.1	44.9	44.8
中3	56.2	57.5	55.9	55.7	54.6	55.4	51.6	51.4	51.0	50.2	50.6	51.1

平成8年度から5年ごとの数値および最新の数値である。身長・体重ともに、ほぼ変わっていない。

図2 年齢間の差（1年間の身長・体重の伸び）



身長が最も伸びた時期は、男子が11～12歳、女子が9～10歳であった。体重が最も増えた時期は、男子が11～12歳、女子が10～11歳であった。

身長・体重ともに、女子の方が成長のピークが早く、性別による違いがある。

(2) 肥満度集計

肥満度による肥満傾向の割合は、小学1年生を除き、すべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。男子は小学6年生、女子は小学6年生から中学1年生がピークであった。

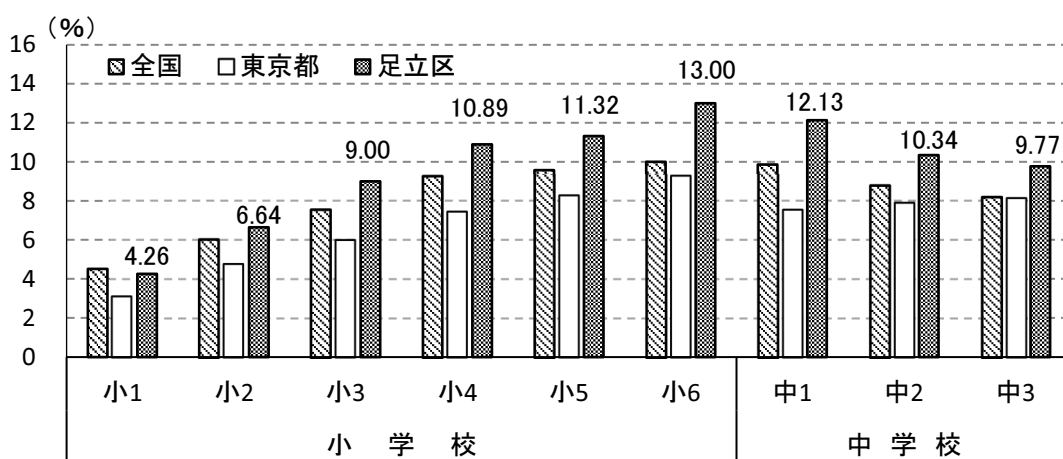
痩身傾向の割合は、男女とも全国・東京都平均よりも下回っている学年が多かった。

表4 肥満度 【男女合計】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校合計(人)	中1	中2	中3	中学校合計(人)	
	5,146	5,210	5,169	5,300	5,344	5,300	31,469	4,484	4,090	4,389	12,963	
肥満傾向	再)20以上合計	219	346	465	577	605	689	2,901	544	423	429	1,396
		4.26	6.64	9.00	10.89	11.32	13.00	9.22	12.13	10.34	9.77	10.77
	50以上	20	26	35	67	62	58	268	83	67	76	226
		0.39	0.50	0.68	1.26	1.16	1.09	0.85	1.85	1.64	1.73	1.74
	30~49	85	127	184	228	252	295	1,171	212	142	168	522
	1.65	2.44	3.56	4.30	4.72	5.57	3.72	4.73	3.47	3.83	4.03	
20~29	114	193	246	282	291	336	1,462	249	214	185	648	
	2.22	3.70	4.76	5.32	5.45	6.34	4.65	5.55	5.23	4.22	5.00	
普通	-19~19	4,912	4,848	4,650	4,653	4,623	4,483	28,169	3,777	3,549	3,861	11,187
		95.45	93.05	89.96	87.79	86.51	84.58	89.51	84.23	86.77	87.97	86.30
痩身傾向	-29~-20	15	16	54	69	116	127	397	162	117	98	377
		0.29	0.31	1.04	1.30	2.17	2.40	1.26	3.61	2.86	2.23	2.91
	-49~-30	0	0	0	1	0	1	2	1	1	1	3
	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	

図3 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男女合計】



肥満度 (%) = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100

肥満傾向児とは、肥満度が20%以上の者。

痩身傾向児とは、肥満度が-20%以下の者

普通児とは、肥満度が-20%超~20%未満の者

全国・東京都：学校統計調査（無作為抽出）

足立区：身長・体重・肥満度報告より作成

表5 肥満度 【男子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1 2,600	小2 2,636	小3 2,599	小4 2,745	小5 2,779	小6 2,763	小学校 合計(人) 16,122	中1 2,313	中2 2,088	中3 2,175	中学校 合計(人) 6,576	
肥満傾向	再)20以上 合計	118	191	238	364	367	420	1,698	313	226	248	787
		4.54	7.25	9.16	13.26	13.21	15.20	10.53	13.53	10.82	11.40	11.97
	50以上	13	21	19	52	44	33	182	58	44	49	151
		0.50	0.80	0.73	1.89	1.58	1.19	1.13	2.51	2.11	2.25	2.30
30~49	48	71	112	141	160	187	719	133	86	106	325	
	1.85	2.69	4.31	5.14	5.76	6.77	4.46	5.75	4.12	4.87	4.94	
20~29	57	99	107	171	163	200	797	122	96	93	311	
	2.19	3.76	4.12	6.23	5.87	7.24	4.94	5.27	4.60	4.28	4.73	
普通	-19~19	2,478	2,437	2,331	2,345	2,349	2,283	14,223	1,919	1,809	1,881	5,609
		95.31	92.45	89.69	85.43	84.53	82.63	88.22	82.97	86.64	86.48	85.30
瘦身傾向	-29~-20	4	8	30	36	63	59	200	80	53	46	179
		0.15	0.30	1.15	1.31	2.27	2.14	1.24	3.46	2.54	2.11	2.72
	-49~-30	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.01	0.04	0.00	0.00	0.02

図4 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男子】

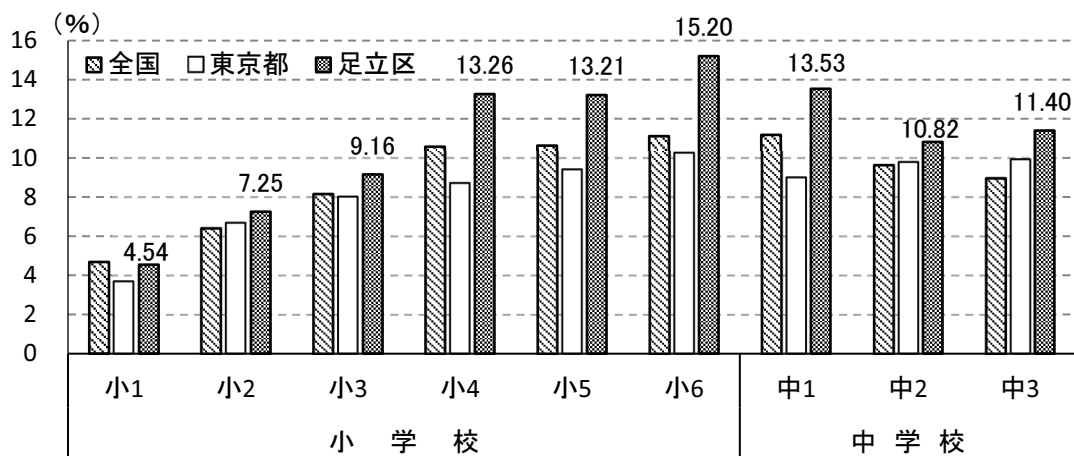


図5 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【男子】

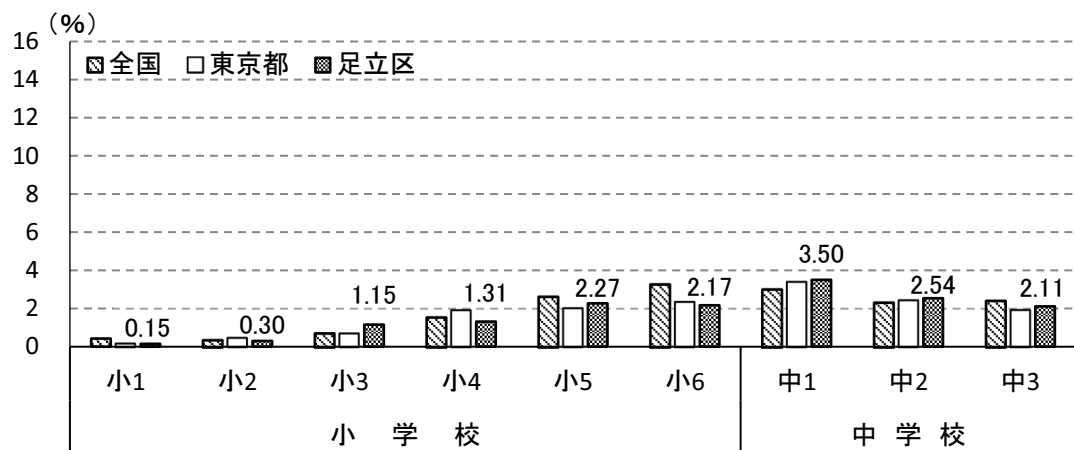


表6 肥満度 【女子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)		小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校 合計(人)	中1	中2	中3	中学校 合計(人)
		2,546	2,574	2,570	2,555	2,565	2,537	15,347	2,171	2,002	2,214	6,387
肥満傾向	再)20以上 合計	101	155	227	213	238	269	1,203	231	197	181	609
		3.97	6.02	8.83	8.34	9.28	10.60	7.84	10.64	9.84	8.18	9.53
	50以上	7	5	16	15	18	25	86	25	23	27	75
		0.27	0.19	0.62	0.59	0.70	0.99	0.56	1.15	1.15	1.22	1.17
	30~49	37	56	72	87	92	108	452	79	56	62	197
		1.45	2.18	2.80	3.41	3.59	4.26	2.95	3.64	2.80	2.80	3.08
20~29	57	94	139	111	128	136	665	127	118	92	337	
	2.24	3.65	5.41	4.34	4.99	5.36	4.33	5.85	5.89	4.16	5.28	
普通	-19~19	2,434	2,411	2,319	2,308	2,274	2,200	13,946	1,858	1,740	1,980	5,578
		95.60	93.67	90.23	90.33	88.65	86.72	90.87	85.58	86.91	89.43	87.33
瘦身傾向	-29~-20	11	8	24	33	53	68	197	82	64	52	198
		0.43	0.31	0.93	1.29	2.07	2.68	1.28	3.78	3.20	2.35	3.10
	-49~-30	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	2
		0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.01	0.00	0.05	0.05	0.03

図6 肥満傾向児(20%以上)出現率 【女子】

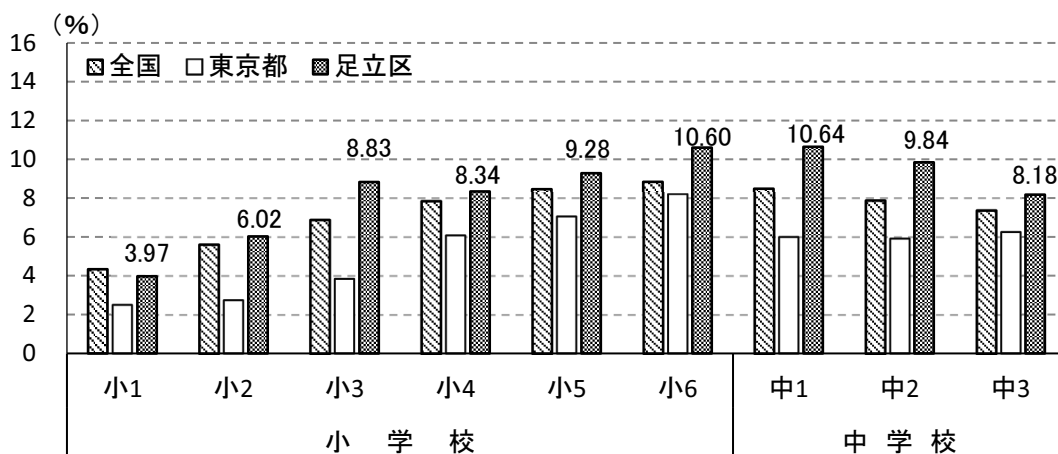


図7 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【女子】

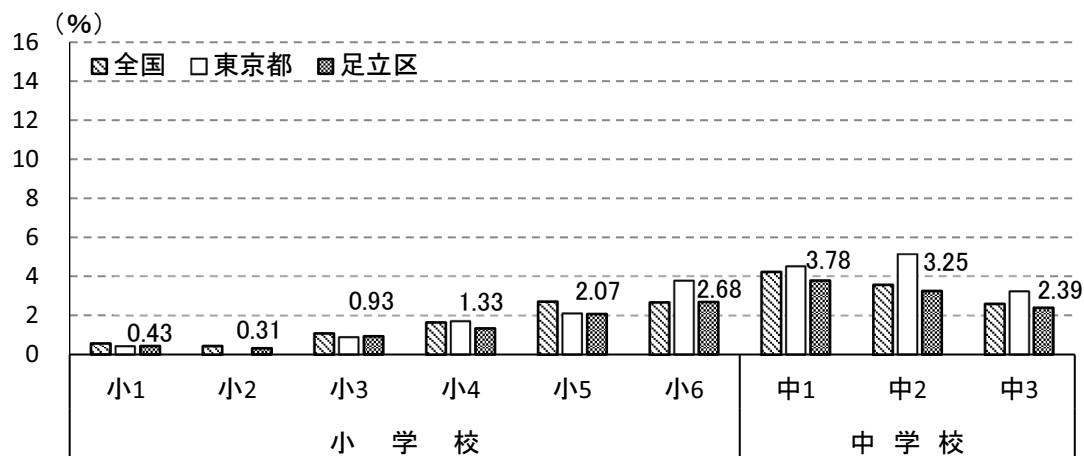
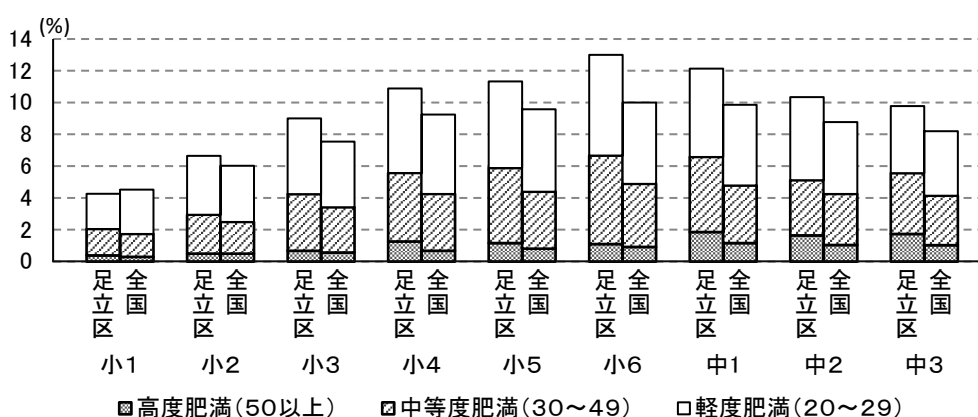


表7・図8 肥満度 【男女合計】 重度・中等度・軽度内訳 全国比較

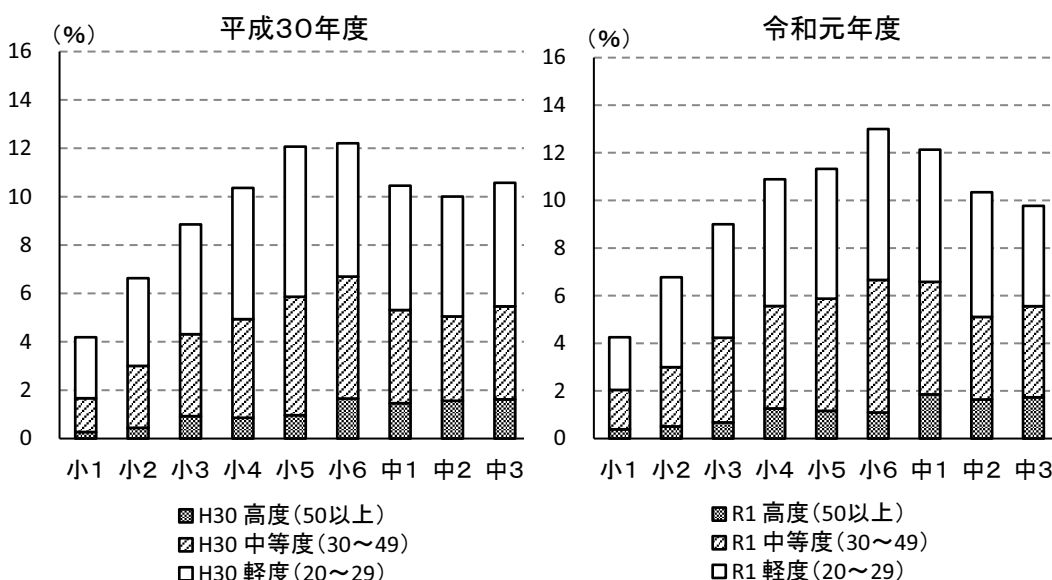
単位 (%)

	高度肥満(50以上)		中等度肥満(30~49)		軽度肥満(20~29)	
	足立区	全国	足立区	全国	足立区	全国
小1	0.39	0.29	1.65	1.44	2.22	2.79
小2	0.50	0.49	2.44	2.00	3.70	3.53
小3	0.68	0.57	3.56	2.84	4.76	4.13
小4	1.26	0.68	4.30	3.57	5.32	4.99
小5	1.16	0.81	4.72	3.58	5.45	5.18
小6	1.09	0.92	5.57	3.96	6.34	5.12
中1	1.85	1.16	4.73	3.62	5.55	5.08
中2	1.64	1.04	3.47	3.21	5.23	4.52
中3	1.73	1.03	3.83	3.11	4.22	4.05



肥満度20%以上の内訳について全国と比較すると、小学1年生の軽度肥満以外は、すべての学年およびすべての肥満度の分類で全国を上回っていた。軽度肥満は小学6年生、中等度肥満は小学5・6年生と中学1年生で、全国の割合と比べて1%以上多かった。

図9 肥満度 【男女合計】 平成30年度との比較



前年度との比較では、小学4・6年生、中学1・2年生は増加した。

2 貧血・小児生活習慣病予防健診

(1) 小児生活習慣病予防健診

ア 総合判定

検査内容：肥満度、血圧、血清脂質〔総コレステロール、HDL・コレステロール、LDL・コレステロール〕
ヘモグロビンA1c（H28追加）、糖尿病歴（学校申告）

対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上（H29追加）と判定された中学3年生

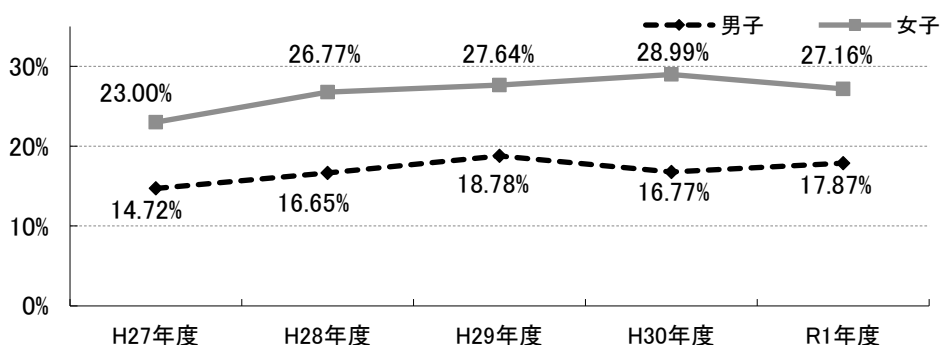
判定基準：巻末【資料1】のとおり

表8 小児生活習慣病予防健診 総合判定結果集計 単位（人）

		受診者数	要医学的管理	要経過観察	要生活指導	管理不要	正常
全受診者	男子	2,171	76 3.50%	172 7.92%	211 9.72%	599 27.59%	1,113 51.27%
	女子	2,166	77 3.55%	198 9.14%	401 18.51%	530 24.47%	960 44.32%
	計	4,337	153 3.53%	370 8.53%	612 14.11%	1,129 26.03%	2,073 47.80%
中学2年	男子	1,802	46 2.55%	104 5.77%	172 9.54%	493 27.36%	987 54.77%
	女子	1,782	44 2.47%	124 6.96%	316 17.73%	441 24.75%	857 48.09%
	計	3,584	90 2.51%	228 6.36%	488 13.62%	934 26.06%	1,844 51.45%
中学3年	男子	369	30 8.13%	68 18.43%	39 10.57%	106 28.73%	126 34.15%
	女子	384	33 8.59%	74 19.27%	85 22.14%	89 23.18%	103 26.82%
	計	753	63 8.37%	142 18.86%	124 16.47%	195 25.90%	229 30.41%

図10 中学2年生の総合判定結果の年次推移

【要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者の割合】



総合判定の有所見者（要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者）は、男子は5.6人に1人に増加したが、女子は3.7人に1人に減少した。

(参考) 健診の変遷

平成4年度	対象は中学1年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学2年生3校でモデル実施としてスタート
平成8年度	指定校を5校に拡大
平成14年度	対象を中学2年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学3年生へ変更 全中学校に拡大
平成28年度	前年度「Ⅰ要医学的管理」判定の中学3年生を対象に追加
平成29年度	前年度「ヘモグロビンA1c 5.6%以上」の中学3年生を対象に追加

イ 各検査項目結果

(ア) 肥満度(中学2年生の全体の傾向については、前章P3～P6を参照のこと)

表9 判定結果集計

単位(人)

肥満度指数(%)		痩せ型	標準型	肥満型		
		-20以下	-19～19	(軽度) 20～29	(中等度) 30～49	(高度) 50以上
全 受 診 者	男子 2,171人	66 3.04%	1,792 82.54%	115 5.30%	141 6.49%	57 2.63%
	女子 2,166人	90 4.16%	1,864 86.06%	106 4.89%	74 3.42%	32 1.48%
	計 4,337人	156 3.60%	3,656 84.30%	221 5.10%	215 4.96%	89 2.05%
中 2	男子 1,802人	60 3.33%	1,534 85.13%	93 5.16%	83 4.61%	32 1.78%
	女子 1,782人	73 4.10%	1,563 87.71%	85 4.77%	46 2.58%	15 0.84%
	計 3,584人	133 3.71%	3,097 86.41%	178 4.97%	129 3.60%	47 1.31%
中 3	男子 369人	6 1.63%	258 69.92%	22 5.96%	58 15.72%	25 6.78%
	女子 384人	17 4.43%	301 78.39%	21 5.47%	28 7.29%	17 4.43%
	計 753人	23 3.05%	559 74.24%	43 5.71%	86 11.42%	42 5.58%

図11 中学2年生の肥満度分布

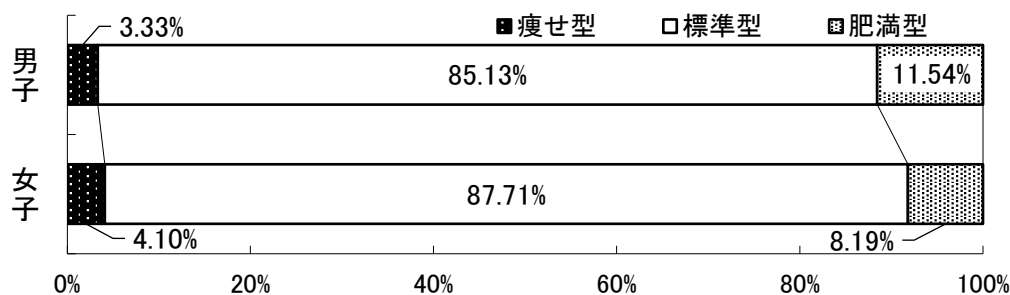
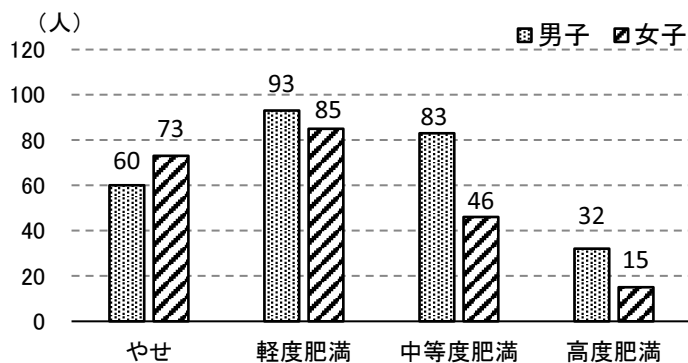
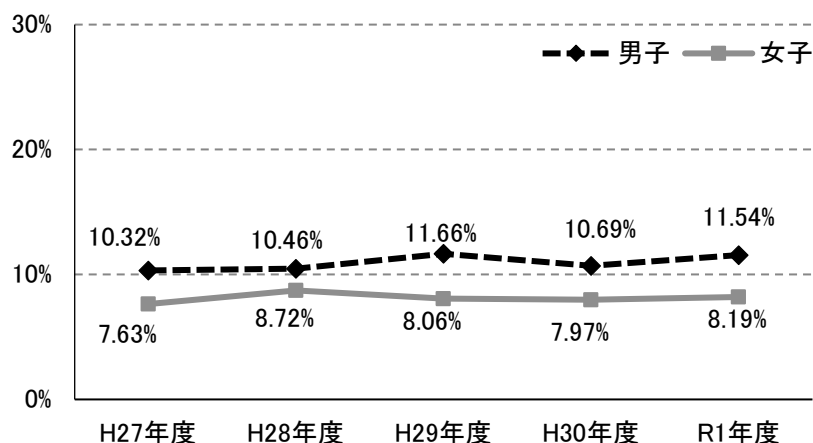


図12 中学2年生のやせ型・肥満型の人数



やせ型は男子より女子に多く、肥満型は男子に多かった。

図 1 3 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【肥満型と判定された者の割合】

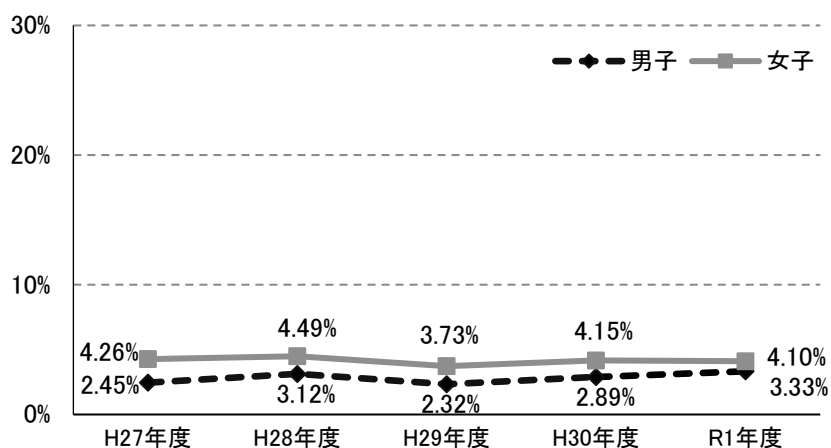


肥満型と判定された者の割合は、男女ともやや増加した。
女子に比べ、男子の割合が高く、男子の 8.7 人に 1 人が肥満型であった。

(参考) 肥満傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
男子	8.37	8.28	8.69	8.73	9.63
女子	7.69	7.46	7.45	7.37	7.88

図 1 4 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【やせ型と判定された者の割合】



やせ型と判定された者の割合は、男女とも大きな変動は見られないが、前年度に比べると男子がやや増加した。男子に比べ、女子の割合が高かった。

(参考) 痩身傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
男子	1.80	2.04	2.26	2.21	2.31
女子	3.49	3.47	3.69	3.32	3.56

(イ) 血圧測定

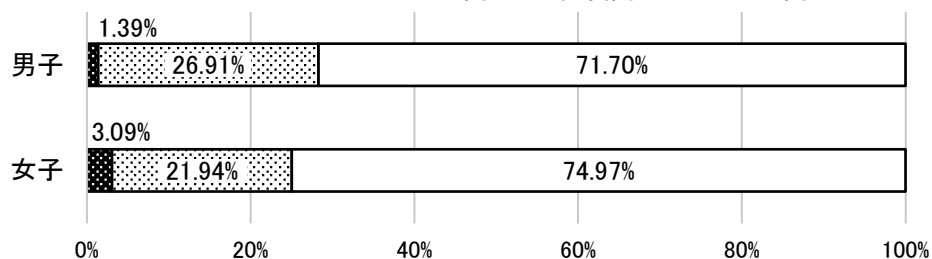
表 10 判定結果集計

単位 (人)

		検査人数	高血圧	軽度高血圧	やや高め	正常	血圧判定基準値	
全受診者	男子	2,171	9 0.41%	31 1.43%	648 29.85%	1,483 68.31%	高血圧	150/95mmHg以上
	女子	2,166	9 0.42%	73 3.37%	508 23.45%	1,576 72.76%	軽度高血圧	140/85mmHg以上
	計	4,337	18 0.42%	104 2.40%	1,156 26.65%	3,059 70.53%	やや高め	120/70mmHg以上
中学2年	男子	1,802	6 0.33%	19 1.05%	485 26.91%	1,292 71.70%	正常	120/70mmHg未満
	女子	1,782	7 0.39%	48 2.69%	391 21.94%	1,336 74.97%	高血圧	145/90mmHg以上
	計	3,584	13 0.36%	67 1.87%	876 24.44%	2,628 73.33%	軽度高血圧	135/80mmHg以上
中学3年	男子	369	3 0.81%	12 3.25%	163 44.17%	191 51.76%	やや高め	120/70mmHg以上
	女子	384	2 0.52%	25 6.51%	117 30.47%	240 62.50%	正常	120/70mmHg未満
	計	753	5 0.66%	37 4.91%	280 37.18%	431 57.24%		

図 15 中学2年生の血圧測定判定結果

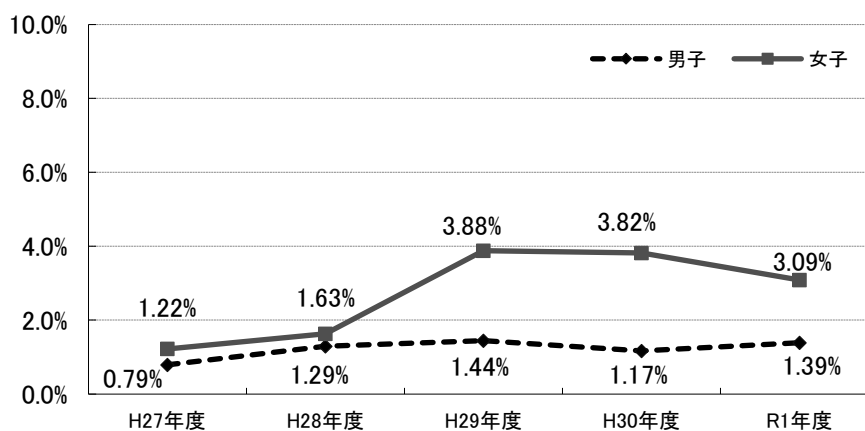
■高血圧・軽度高血圧 □やや高め □正常



血圧がやや高め以上の割合は、男子は3.5人に1人、女子は4.0人に1人であり、男女とも前年度よりも割合が増加した。

図 16 中学2年生の血圧判定結果の年次推移

【高血圧・軽度高血圧と判定された者の割合】



軽度高血圧以上の割合では、男子は横ばいであり、女子は減少した。

(ウ) 血清脂質検査

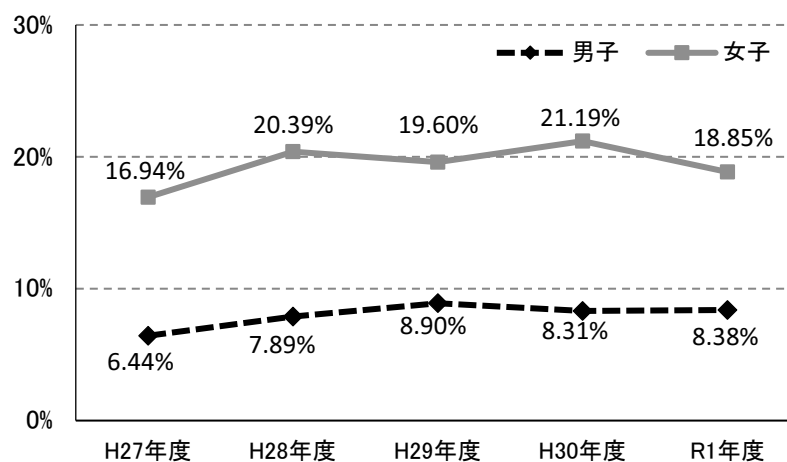
表 1 1 判定結果集計

単位 (人)

		検査人数	かなりの異常	異常	異常傾向	やや異常傾向	正常
全 受 診 者	男子	2,170	11 0.51%	29 1.34%	175 8.06%	286 13.18%	1,669 76.91%
	女子	2,161	34 1.57%	80 3.70%	359 16.61%	309 14.30%	1,379 63.81%
	計	4,331	45 1.04%	109 2.52%	534 12.33%	595 13.74%	3,048 70.38%
中 2	男子	1,801	7 0.39%	18 1.00%	126 7.00%	223 12.38%	1,427 79.23%
	女子	1,777	19 1.07%	46 2.59%	270 15.19%	254 14.29%	1,188 66.85%
	計	3,578	26 0.73%	64 1.79%	396 11.07%	477 13.33%	2,615 73.09%
中 3	男子	369	4 1.08%	11 2.98%	49 13.28%	63 17.07%	242 65.58%
	女子	384	15 3.91%	34 8.85%	89 23.18%	55 14.32%	191 49.74%
	計	753	19 2.52%	45 5.98%	138 18.33%	118 15.67%	433 57.50%

図 1 7 中学 2 年生の血清脂質検査判定結果の年次推移

【かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者の割合】



血清脂質の有所見者 (かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者) の割合は、女子は男子に比べて 2 倍以上高く、5.3 人に 1 人であった。前年度と比較すると、男子は横ばいであり、女子は減少した。

(エ) ヘモグロビンA1c検査（平成28年度からの追加項目）

ヘモグロビンA1c検査は、過去1～2ヶ月間の平均的血糖値を反映する検査である。

表12 判定結果集計

単位（人）

		検査人数	a 高値	b 高値	d 正常高値	n 正常範囲
			6.5%以上	6.0～6.4%	5.6～5.9%	5.5%以下
全受診者	男子	2,170	5 0.23%	6 0.28%	204 9.40%	1,955 90.09%
	女子	2,161	3 0.14%	8 0.37%	191 8.84%	1,959 90.65%
	計	4,331	8 0.18%	14 0.32%	395 9.12%	3,914 90.37%
中学2年	男子	1,801	4 0.22%	6 0.33%	138 7.66%	1,653 91.78%
	女子	1,777	2 0.11%	4 0.23%	131 7.37%	1,640 92.29%
	計	3,578	6 0.17%	10 0.28%	269 7.52%	3,293 92.03%
中学3年	男子	369	1 0.27%	0 0.00%	66 17.89%	302 81.84%
	女子	384	1 0.26%	4 1.04%	60 15.63%	319 83.07%
	計	753	2 0.27%	4 0.53%	126 16.73%	621 82.47%

表13 ヘモグロビンA1c検査判定基準

図18 中学2年生のヘモグロビンA1c検査結果

高値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0～6.4%	医療機関（かかりつけ医、学校医）で再検査（空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査）をお勧めします。
正常範囲	d	5.6～5.9%	正常高値です（2年生は来年度、学校で再検査）。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

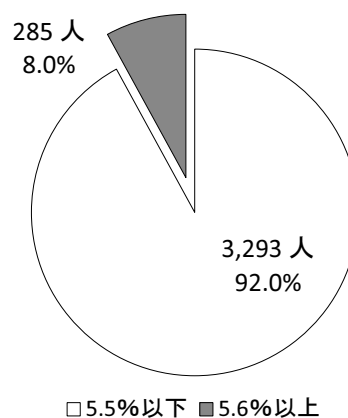


表14 中学2年生 小児生活習慣病有所見者*とヘモグロビンA1c検査結果との関係

小児生活習慣病予防健診有所見者*	806人	22.49%
ヘモグロビンA1c 正常高値以上 (5.6%以上)	285人	7.97%
小児生活習慣病予防健診有所見者*とヘモグロビンA1c 5.6%以上の重複者	101人	2.82%

* 生活習慣病予防健診有所見者…Ⅰ 要医学的管理、Ⅱ 要経過観察、Ⅲ 要生活指導 判定の者

ヘモグロビンA1c検査で正常高値以上の割合は、12.6人に1人であり、前年度より減少した。

(2) 貧血検査

思春期、成長期における貧血の予防および早期発見を目的として実施している。

検査内容：白血球数(WBC)、赤血球数(RBC)、血色素量(Hgb)、赤血球容積比(Hct)等

対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上(H29追加)と判定された中学3年生

判定基準：巻末【資料1】のとおり

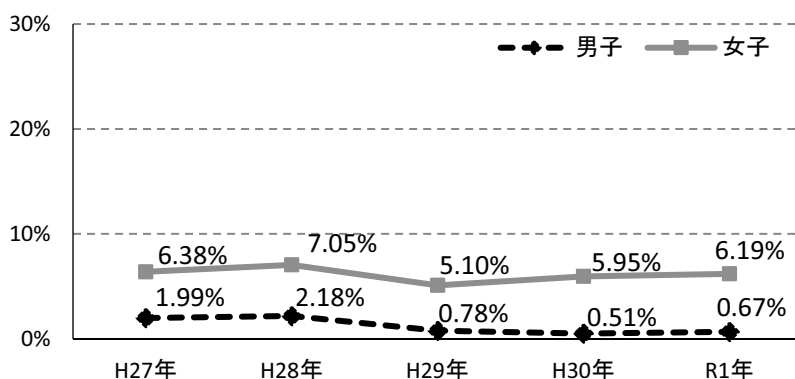
表15 貧血検査 判定結果集計 単位(人)

		受診者数	要受診	要再検	正常
全受診者	男子	2,170	14 0.65%	22 1.01%	2,134 98.34%
	女子	2,160	142 6.57%	7 0.32%	2,011 93.10%
	計	4,330	156 3.60%	29 0.67%	4,145 95.73%
中2	男子	1,801	12 0.67%	18 1.00%	1,771 98.33%
	女子	1,776	110 6.19%	7 0.39%	1,659 93.41%
	計	3,577	122 3.41%	25 0.70%	3,430 95.89%
中3	男子	369	2 0.54%	4 1.08%	363 98.37%
	女子	384	32 8.33%	0 0.00%	352 91.67%
	計	753	34 4.52%	4 0.53%	715 94.95%

※ 要再検者は血色素量高値または赤血球・平均赤血球容積(MCV)値異常の者

図19 中学2年生の貧血検査判定結果の年次推移

【有所見者※の割合】



※ 有所見者について

平成28年度までは「要受診・要注意」、平成29年度からは「要受診」を計上(平成29年度に基準値変更あり。分類「要注意」が削除されたため)。

貧血検査の有所見者(要受診と判定された者)は、女子が男子に比べ約9倍多く、女子は16.1人に1人であった。割合は、男女とも横ばいである。

3 定期健康診断疾病異常調査

(1) 定期健康診断の受診状況

受診率は、小学生は99.2%、中学生は95.3%であった。

表16 定期健康診断の受診率学年別受診状況

	単位(人)			単位(人)			単位(%)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
小1	2,604	2,541	5,145	2,589	2,529	5,118	99.42	99.53	99.48
小2	2,638	2,572	5,210	2,616	2,553	5,169	99.17	99.26	99.21
小3	2,600	2,566	5,166	2,573	2,555	5,128	98.96	99.57	99.26
小4	2,744	2,560	5,304	2,721	2,544	5,265	99.16	99.38	99.26
小5	2,795	2,555	5,350	2,761	2,543	5,304	98.78	99.53	99.14
小6	2,773	2,551	5,324	2,752	2,522	5,274	99.24	98.86	99.06
小学校計	16,154	15,345	31,499	16,012	15,246	31,258	99.12	99.35	99.23
中1	2,342	2,188	4,530	2,263	2,104	4,367	96.63	96.16	96.40
中2	2,175	2,064	4,239	2,054	1,950	4,004	94.44	94.48	94.46
中3	2,244	2,280	4,524	2,138	2,165	4,303	95.28	94.96	95.11
中学校計	6,761	6,532	13,293	6,455	6,219	12,674	95.47	95.21	95.34
小中合計	22,915	21,877	44,792	22,467	21,465	43,932	98.04	98.12	98.08

(2) 四肢異常

表17 四肢異常の割合

男子	単位(%)		女子	単位(%)	
	足立区	東京都		足立区	東京都
小1	0.27	0.17	小1	0.08	0.08
小2	0.19	0.18	小2	0.27	0.16
小3	0.16	0.24	小3	0.16	0.15
小4	0.37	0.28	小4	0.35	0.20
小5	0.22	0.30	小5	0.31	0.25
小6	0.29	0.47	小6	0.48	0.28
中1	0.27	0.43	中1	0.24	0.28
中2	0.34	0.56	中2	0.41	0.38
中3	0.19	0.54	中3	0.14	0.54

四肢異常は、すべての学年で1%以下であった。

東京都との比較では、男子は小学1・2・4年生で東京都平均を上回り、女子は中学1・3年生で東京都平均を下回っていた。

※ 四肢異常の計上の調査内容について

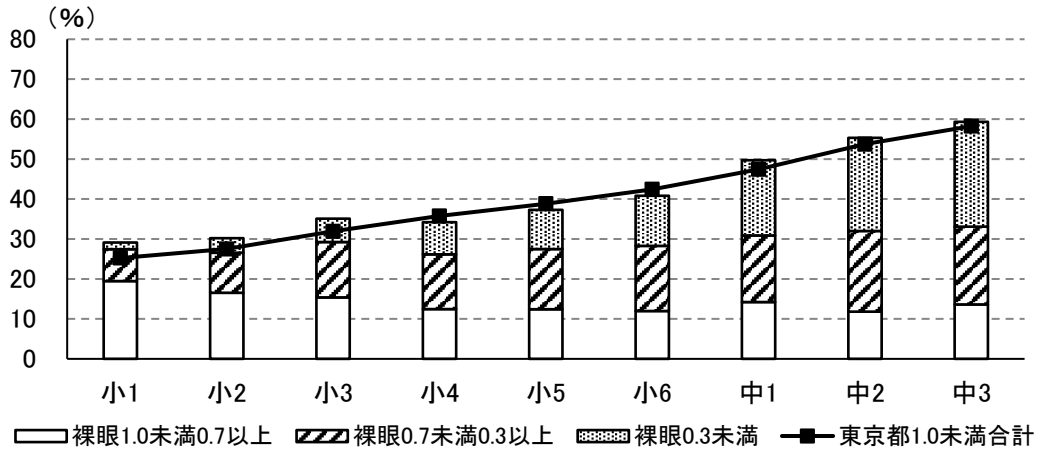
平成28年度は「調査票提出までに専門医により四肢に関して疾病・異常と判断された者」が対象であった。平成29年度からは「学校医が疾病異常と判断した者と、医療機関において治療中、経過観察中の者」と対象が拡大された。

(3) 視力検査 (裸眼視力 1.0 未満の児童生徒の割合)

男女とも、学年が上がるにつれ、裸眼視力 0.3 未満の割合が増えていた。すべての学年において、男子よりも女子の方が裸眼視力 1.0 未満の割合が高かった。

また、小学 4～6 年生男子、中学 3 年生女子を除き、東京都平均よりも裸眼視力 1.0 未満の割合が高かった。

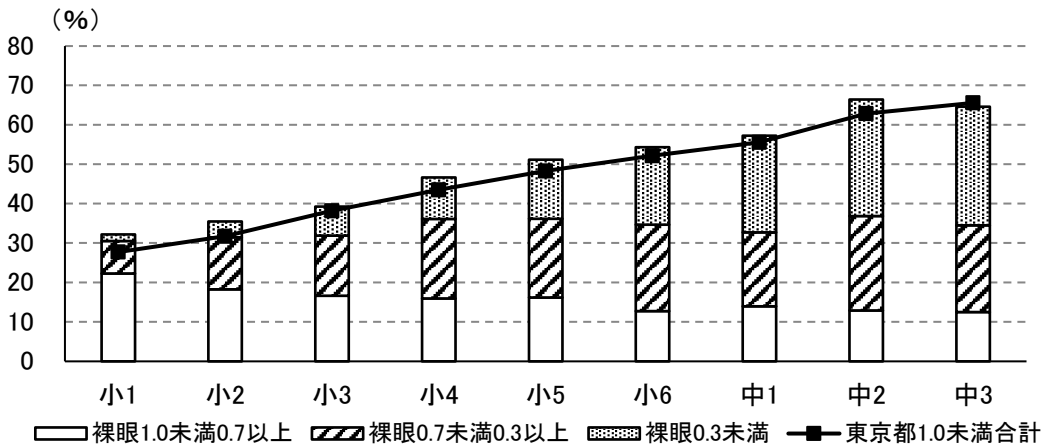
図 20・表 18 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【男子】



単位 (%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	29.13	30.22	35.08	34.20	37.29	40.83	49.71	55.31	59.31
	東京都	25.27	27.50	31.92	35.75	38.82	42.42	47.44	53.75	58.24

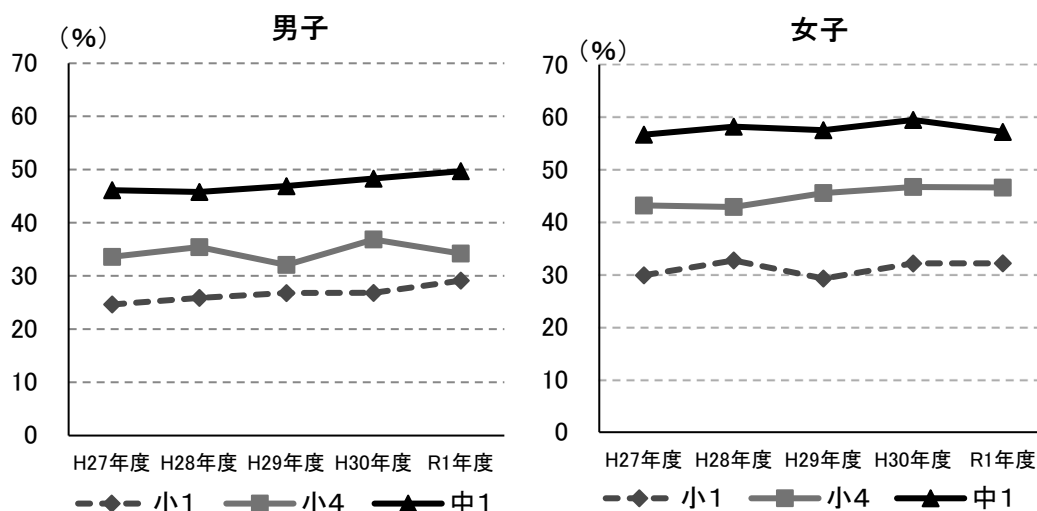
図 21・表 19 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【女子】



単位 (%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	32.16	35.44	39.24	46.61	51.12	54.31	57.21	66.38	64.59
	東京都	27.71	31.71	38.16	43.48	48.28	52.14	55.54	62.83	65.58

図 2 2 ・ 表 2 0 裸眼視力 1. 0 未満割合の年次推移



単位 (%)

	男 子					女 子				
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小 1	24.64	25.87	26.78	26.81	29.13	29.89	32.72	29.28	32.15	32.16
小 4	33.58	35.42	32.07	36.85	34.20	43.19	42.92	45.56	46.71	46.61
中 1	46.12	45.79	46.89	48.30	49.71	56.68	58.20	57.53	59.49	57.21

(4) 聴力検査

聴力検査による難聴者の割合は、全体で0.6%程度であり、前年度と比べると横ばいであった。

表 2 1 難聴者*数の年次推移

単位 上段 (人) / 下段 (%)

	男 子					女 子				
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小 1	19 0.68%	41 1.50%	33 1.26%	28 1.09%	28 1.08%	28 1.09%	54 2.09%	40 1.57%	32 1.25%	23 0.91%
小 2	20 0.73%	19 0.69%	24 0.88%	20 0.79%	8 0.30%	23 0.92%	29 1.13%	28 1.09%	30 1.19%	22 0.86%
小 3	25 0.93%	16 0.58%	25 0.90%	19 0.72%	13 0.50%	25 1.00%	20 0.80%	21 0.82%	29 1.15%	7 0.27%
小 5	14 0.55%	15 0.61%	26 0.96%	11 0.41%	7 0.25%	35 1.34%	21 0.88%	16 0.63%	16 0.63%	11 0.43%
中 1	23 1.02%	16 0.70%	22 0.99%	15 0.70%	11 0.48%	16 0.74%	25 1.12%	20 0.89%	12 0.59%	8 0.37%
中 3	24 1.00%	19 0.79%	13 0.57%	14 0.63%	13 0.60%	24 1.10%	26 1.13%	22 1.00%	21 0.96%	19 0.87%

* 難聴者とは、オーディオメータを使用して検査した場合、両耳とも1,000ヘルツにおいて30デシベル、または、4,000ヘルツにおいて25デシベル相当の音が聴取できない者。

* 聴力検査は、小学1～3年生と5年生、中学1年生と3年生で実施している。

(5) アレルギー性疾患

各疾患については、ここ1年以内にその疾患と判定された者、または医療機関で経過観察中の者を、学校医の判定に加え保健調査や日常の健康観察により把握している。

ア アレルギー性眼疾患

アレルギー性眼疾患の被患率は、小学5年生が最も高く、中学生で減少した。すべての学年で、女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表22・図23 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

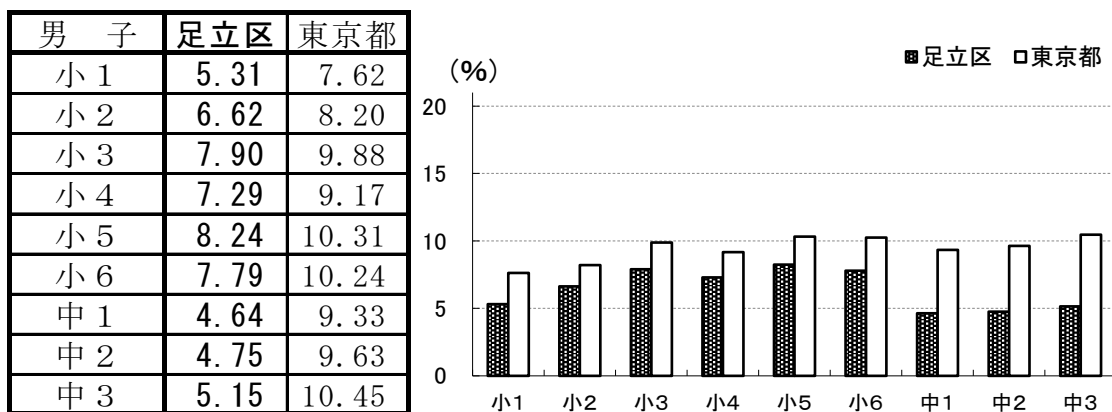


表23・図24 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

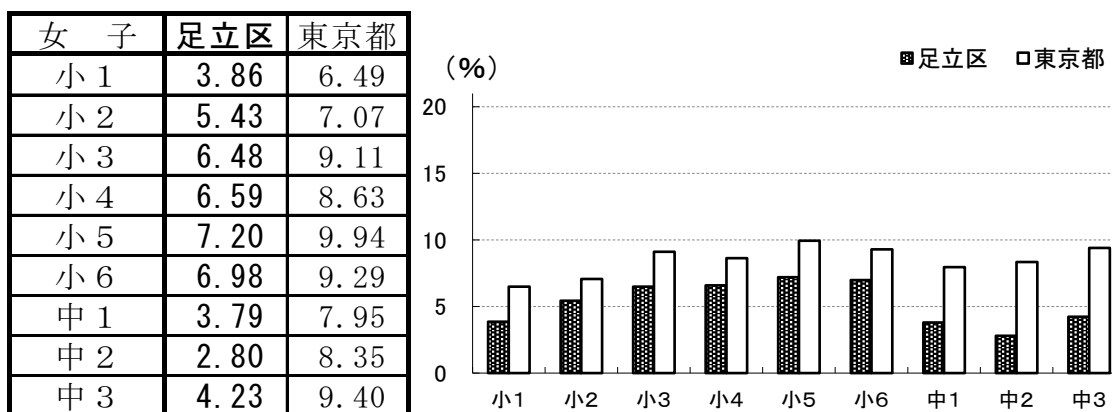


表24 年次推移 単位: 受診数・被患数(人)、被患率(%)

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,995	2,011 6.49%	31,034	2,260 7.28%	31,059	2,381 7.67%	31,201	2,416 7.74%	31,100	2,073 6.67%
中学生	13,660	753 5.51%	13,429	708 5.27%	13,158	632 4.80%	12,766	581 4.55%	12,636	537 4.25%

小学生の被患率は前年度までは年々増加していたが、今年度は減少した。中学生の被患率は年々減少しており、過去5年間で最も低かった。

イ アレルギー性鼻疾患

アレルギー性鼻疾患の被患率は、男女ともに小学5年生が最も高く、すべての学年で女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表25・図25 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位(%)

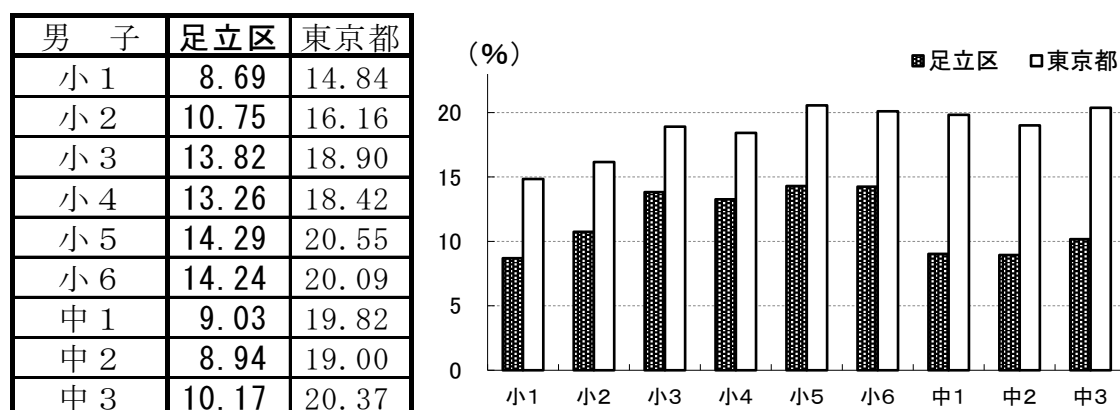


表26・図26 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位(%)

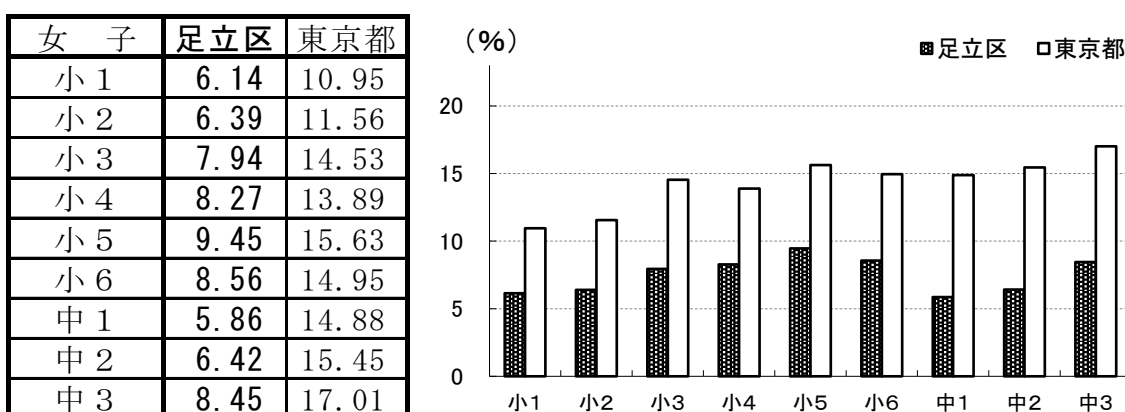


表27 年次推移

単位: 受診数・被患数(人)、被患率(%)

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,978	3,504 11.31%	31,053	3,975 12.80%	30,831	3,968 12.87%	31,316	3,774 12.05%	31,102	3,180 10.22%
中学生	13,687	1,825 13.33%	13,448	1,710 12.72%	13,137	1,463 11.14%	12,782	1,522 11.91%	12,627	1,032 8.17%

被患率は前年度に比べ小学生・中学生ともに減少し、過去5年間で最も低かった。

ウ アレルギー性皮膚疾患

アレルギー性皮膚疾患の被患率は、小学1年生、中学2年生以外は男子の割合が高かった。東京都との比較では、男女ともすべての学年で、東京都平均を下回っていた。

表28・図27 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位(%)

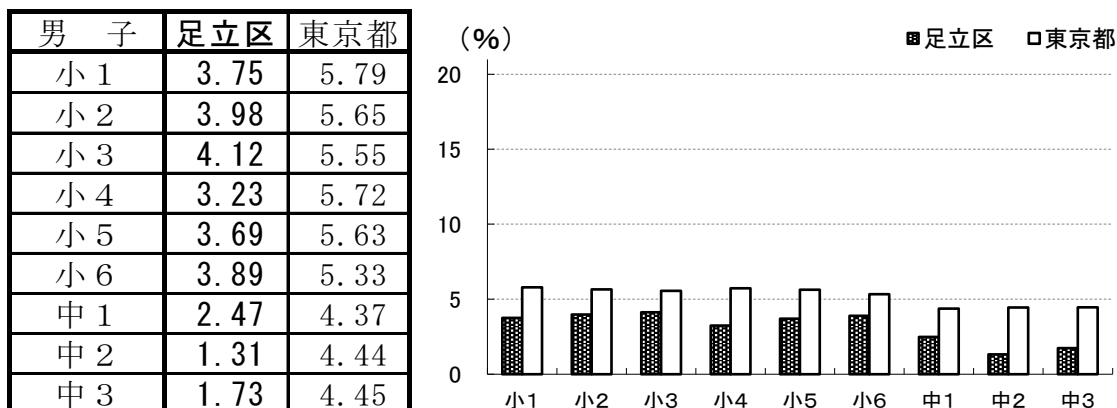


表29・図28 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位(%)

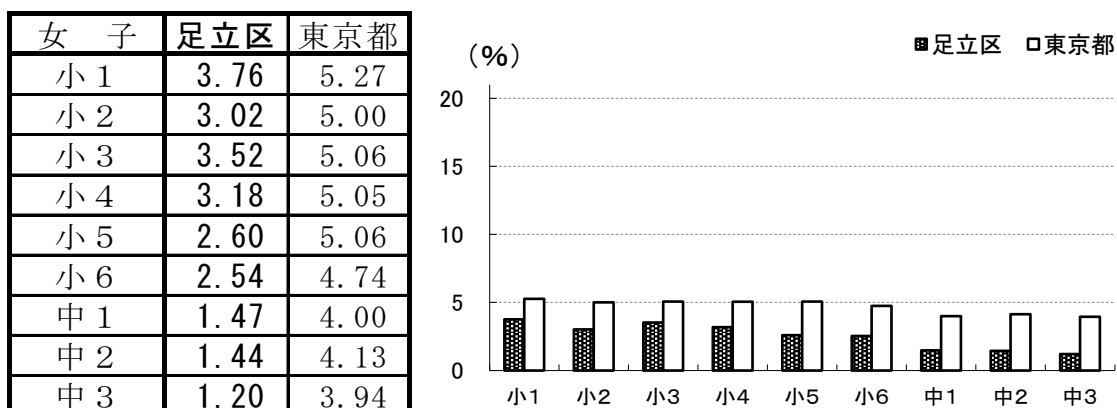


表30 年次推移 単位: 受診数・被患者数(人)、被患率(%)

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
	受診数	被患者数 被患率	受診数	被患者数 被患率	受診数	被患者数 被患率	受診数	被患者数 被患率	受診数	被患者数 被患率
小学生	31,146	1,121	31,198	1,302	31,115	1,531	31,441	1,272	31,258	1,077
		3.60%		4.17%		4.92%		4.05%		3.45%
中学生	13,832	315	13,504	342	13,275	349	12,865	310	12,674	205
		2.28%		2.53%		2.63%		2.41%		1.62%

被患率は前年度に比べ小学生・中学生ともに減少し、過去5年間で最も低かった。

エ 気管支喘息

気管支喘息の被患率は、すべての学年で女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、小学3年生男子、小学5年生女子以外のすべての学年において東京都平均を下回っていた。

表31・図29 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

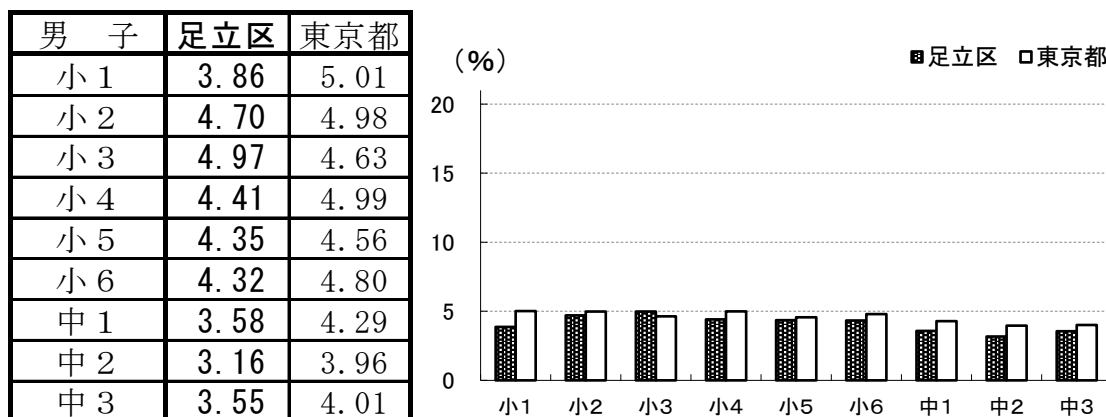


表32・図30 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

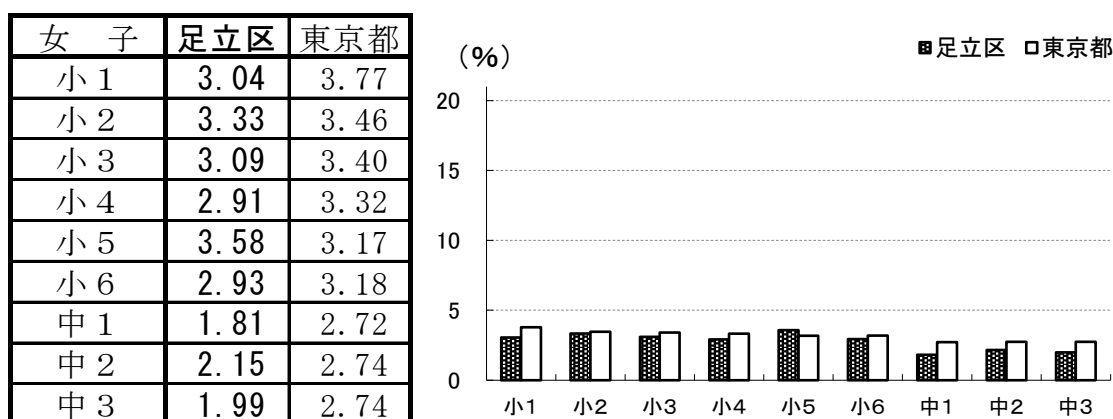


表33 年次推移

単位：受診数・被患数（人）、被患率（%）

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	31,146	1,755 5.63%	31,198	1,784 5.72%	31,115	1,779 5.72%	31,441	1,697 5.40%	31,258	1,190 3.81%
中学生	13,832	598 4.32%	13,504	557 4.12%	13,275	461 3.47%	12,865	494 3.84%	12,674	345 2.72%

被患率は前年度に比べ、小学生・中学生ともに減少し、過去5年間で最も低かった。

(6) 結核検診

小・中学校児童生徒の結核予防対策として実施している。

精密検査対象者は、5名だったが、結核被患者は発見されなかった。

表 3 4 結核検診結果

単位(人)

		在籍数	問診調査		学校医による診察		教育委員会での検診が必要とされた人数	精密検査対象者数	
			実施者数	要検討者数	実施者数	要検討者数		教育委員会での精密検査対象となった人数	教育委員会検討対象となった割合(%)
足立区	小学生	31,451	31,216	168 0.54%	30,569	6 0.02%	110 0.35%	5 0.016%	4.55%
	中学生	13,311	13,212	26 0.20%	12,740	3 0.02%	20 0.15%	0 0.000%	0.00%
	合計	44,762	44,428	194 0.44%	43,309	9 0.02%	130 0.29%	5 0.011%	3.85%

表 3 5 結核検診精密検査結果

単位(人)

		精密検査受検者数							精密検査結果				
		精密検査対象者数	精密検査受検者数	内 訳					要医療		経過観察	異常なし	精密検査受検者数から異常なしとなった割合(%)
				ツベルクリン反応検査のみ	ツベルクリンX線撮影	ツベルクリンX線検査・X線撮影	QFT検査	(診察のみ等)	要医療	予防内服(再掲)			
足立区	小学生	5	5 100.00%	0	0	5	0	0	0	0	0	5	100.00%
	中学生	0	0 0.00%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	合計	5	5 100.00%	0	0	5	0	0	0	0	0	5	100.00%

(7) 心臓疾患検診

小・中学校児童生徒の心臓病疾患の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表36 検査内容

アンケート調査		第1次検査		第2次検査	
内容	対象	内容	対象	内容	対象
アンケートによる異常者抽出	児童・生徒全員 ※ただし、小・中学1年生は参考用として用いる。	2点心音図 4誘導心電図	小・中学1年生全員 およびアンケートなどによる抽出者	標準12誘導心電図 専門医による問診聴打診 その他の必要な検査 負荷心電図 心エコー検査 4点心音図 など	第1次検査有所見者 および経過観察者

表37 検査結果 【小学生】

単位(人)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
小1	5,115	61 1.19%	28 0.55%	0 0.00%	3 0.06%	30 0.59%	63 1.23%
他学年 抽出者	341	24 7.04%	6 1.76%	0 0.00%	3 0.88%	15 4.40%	18 5.28%
合計	5,456	85 1.56%	34 0.62%	0 0.00%	6 0.11%	45 0.82%	81 1.48%

表38 検査結果 【中学生】

単位(人)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
中1	4,448	55 1.24%	19 0.43%	0 0.00%	1 0.02%	35 0.79%	91 2.05%
他学年 抽出者	155	12 7.74%	2 1.29%	0 0.00%	0 0.00%	10 6.45%	14 9.03%
合計	4,603	67 1.46%	21 0.46%	0 0.00%	1 0.02%	45 0.98%	105 2.28%

有所見者では、小学生・中学生ともに、先天性心疾患および心電図異常が多く見られた。

表39 心疾患別診断結果 【小学生】

単位(人)

項目 区分	先天性心疾患											心電図異常										その他 疾患 の 計	合計					
	VSD	ASD	PDA	PTD	TOS	AOS	AVSD	TGA	MAR	その他	小計	後天性心疾患		右脚ブロック		期外収縮			房室ブロック					肥大		WPW	その他	小計
												完全	不完全	心室性	上室性	1度	2度	完全	左室	右室								
小1	7	6	2	2	1	0	0	3	1	6	28	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	1	2	8	5	30	3	61
他学年 抽出者	3	0	1	1	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	9	1	0	0	0	0	2	0	3	0	15	3	24	
合計	10	6	3	3	1	0	0	3	1	7	34	0	0	0	23	1	0	0	0	0	3	2	11	5	45	6	85	

表 4 0 心疾患別診断結果 【中学生】

単位(人)

項目 区分	先天性心疾患										後天性 心疾患	心電図異常										心 疾 患 の 他 計	合 計			
	VSD	ASD	PDA	PS	TOF	AS	AVSD	TGA	MR	その他		右脚ブロック	期外収縮		房室ブロック			肥大		WPW	その他			小計		
	完全	不完全	心室性	上室性	1度	2度	完全	左室	右室	WPW		その他	小計													
中1	7	4	1	1	2	1	0	0	0	3	19	0	1	0	22	0	0	1	0	0	0	3	8	35	1	55
他学年 抽出者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	2	10	0	12
合計	7	4	1	1	2	1	0	0	1	4	21	0	1	0	28	0	0	1	0	0	0	5	10	45	1	67

注) 診断名について

VSD-心室中隔欠損 P S-肺動脈狭窄 AVSD-心内膜床欠損 WPW-WPW症候群
 ASD-心房中隔欠損 TOF-ファロー四徴 TGA-大血管転位
 PDA-動脈管開存 AS-大動脈弁狭窄 MR-僧帽弁閉鎖不全症

小学生・中学生ともに、先天性心疾患ではVSD(心室中隔欠損)が多く、心電図異常では心室性期外収縮が最も多かった。

(8) 尿検査(腎臓検診・糖尿病検診)

小・中学校児童生徒の腎臓病、糖尿病の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表 4 1 腎臓検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査(四法方式) 小児科医による一般的診断 血圧測定 血液学的検査 血液生化学的検査 免疫学的検査

表 4 2 腎臓検診 検査結果

単位(人)

項目 種別	第1次検査		第2次検査		検診 第3次 者数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳						
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			要 受 診			単 独 所 見			
							腎 炎	腎炎疑	尿路 感染症	血尿	微量血尿	蛋白尿	その他
小学生	31,417	1,125 3.58%	1,053	440 1.40%	336	215 0.68%	0	3	11	70	100	31	0
中学生	13,022	1,271 9.76%	1,164	398 3.06%	325	141 1.08%	0	1	10	22	39	66	0

※ 要受診者の症状(血尿や尿蛋白の重複)は、単独所見の件数に含まれていない。
 ※ 起立性蛋白尿は管理不要とし有所見者数に含まれていない。

第3次検査の結果、小学生に3人、中学生に1人、腎炎の疑いのある者が発見された。

表 4 3 糖尿病検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査 (尿糖、インスリン、アセトン) 専門医による診察 ブドウ糖負荷試験(血糖、尿糖) 血液検査

表 4 4 糖尿病検診 検査結果

単位 (人)

種別	第1次検査		第2次検査		検診 第3次 者数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳				
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			糖尿病	糖尿病 疑	境界型 糖尿病	高インス リン血症	その他
小学生	31,417	24 0.08%	18	10 0.03%	6	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
中学生	13,022	27 0.21%	21	3 0.02%	1	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

第3次検査の結果、小学生・中学生ともに、有所見者はいなかった。

表 4 5 糖尿病発見数の年次推移

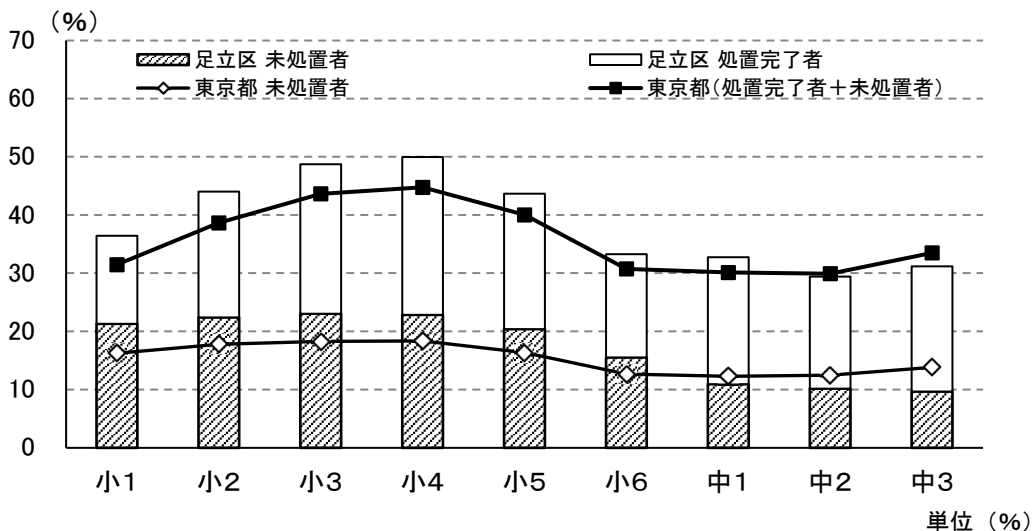
単位 (人)

種別	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小学生	0	0	1	0	0
中学生	1	2	1	0	0

(9) 歯科健診

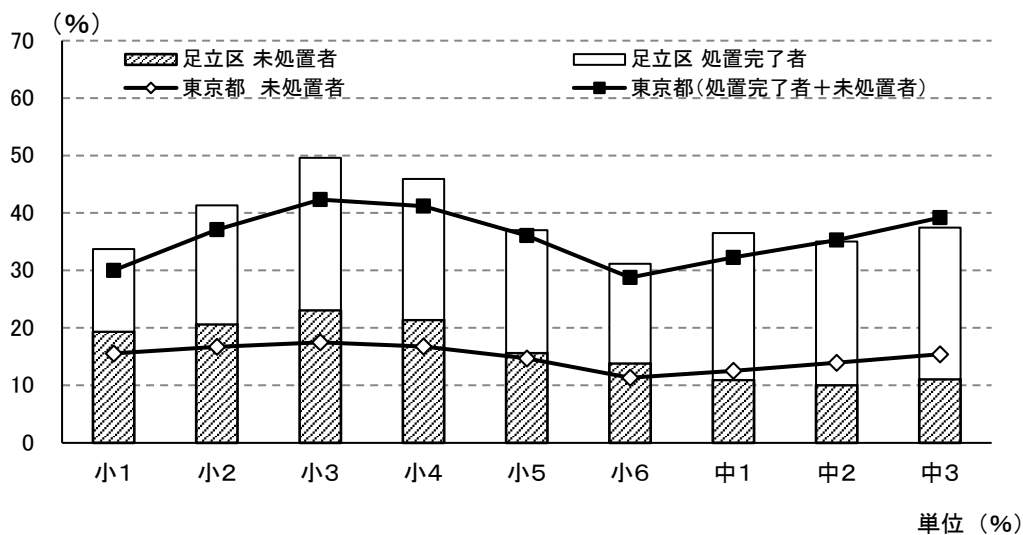
ア 乳歯または永久歯のむし歯（治療済みのむし歯も含む）のある児童生徒の割合

図31・表46 学年別割合および東京都比較 【男子】



		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	36.43	44.00	48.70	49.96	43.66	33.25	32.73	29.40	31.18
	東京都	31.46	38.64	43.64	44.75	40.01	30.73	30.11	29.91	33.49

図32・表47 学年別割合および東京都比較 【女子】



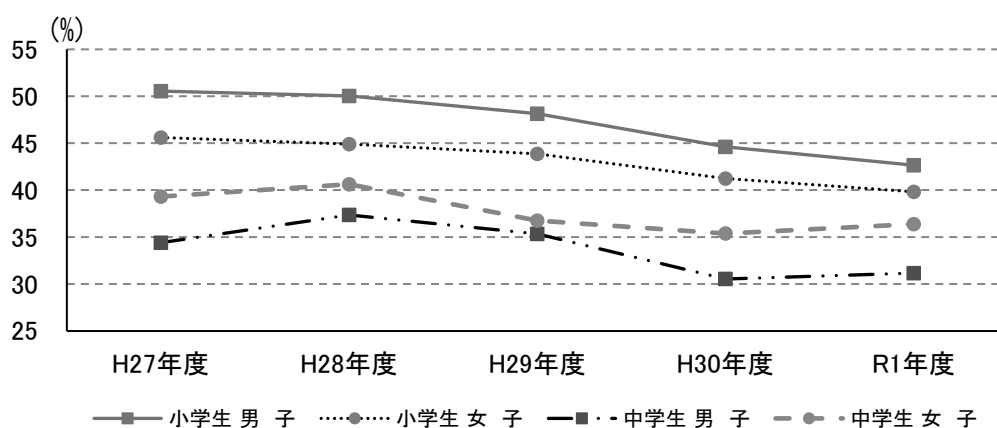
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	33.73	41.32	49.59	45.93	37.02	31.16	36.51	35.04	37.45
	東京都	30.00	37.10	42.33	41.20	36.07	28.79	32.26	35.29	39.18

むし歯の被患率は、永久歯に生え変わる小学校高学年で一旦減少し、以降女子は微増傾向にあった。東京都との比較では、中学2・3年生を除き、東京都平均を上回っていた。未処置者の割合は、男女とも小学生では東京都平均を上回っていたが、中学生では東京都平均を下回っていた。

表48・図33 むし歯のある児童生徒の割合の年次推移
単位 (%)

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小学生	男子	50.54	50.02	48.14	44.60	42.65
	女子	45.60	44.89	43.86	41.24	39.82
	総数	48.13	47.52	46.06	42.97	41.27
中学生	男子	34.40	37.36	35.34	30.54	31.16
	女子	39.31	40.62	36.75	35.38	36.38
	総数	36.76	38.96	36.04	32.95	33.73

『う歯被患率 = (処置完了者 + 未処置歯のある者) ÷ 歯科受診者数 × 100』とした。



小学生は、男女ともに年々減少しており、過去5年間で最も低かった。中学生は、前年度から微増した。

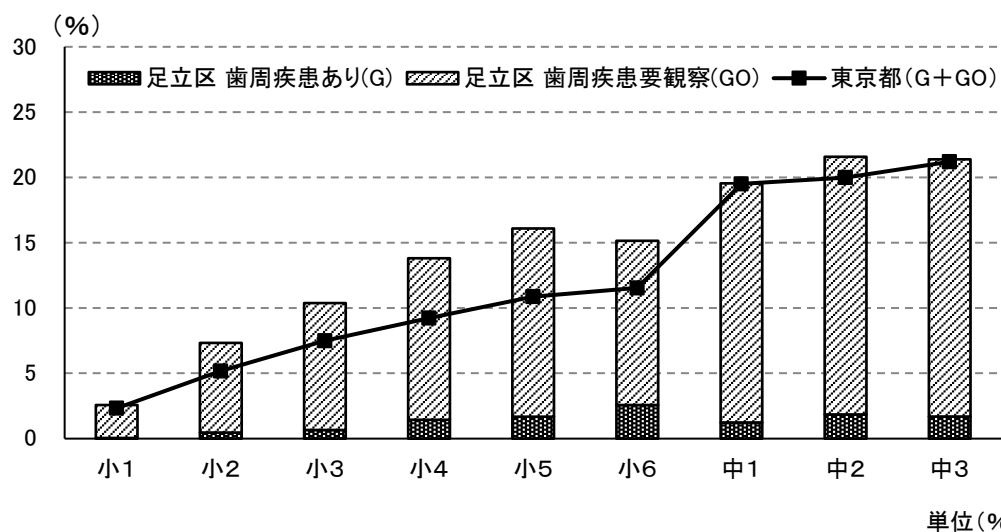
表49 むし歯のある児童生徒の割合の学年別年次推移 単位 (%)

	男子					女子				
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小1	44.13	41.08	40.79	37.36	36.43	39.22	39.28	38.82	35.26	33.73
小2	53.33	51.32	47.97	47.26	44.00	46.55	47.17	45.49	46.99	41.32
小3	59.51	58.30	55.59	49.98	48.70	53.61	50.80	49.51	47.54	49.59
小4	56.51	59.32	56.95	52.32	49.96	52.84	52.33	49.98	46.24	45.93
小5	52.76	49.10	50.06	45.12	43.66	46.66	43.96	44.60	37.29	37.02
小6	37.56	40.44	35.94	35.20	33.25	35.38	36.25	34.17	33.99	31.16
中1	33.19	36.15	33.73	28.98	32.73	37.48	38.08	33.50	32.92	36.51
中2	33.69	34.83	35.31	29.43	29.40	39.62	39.25	36.10	34.43	35.04
中3	36.19	40.90	36.95	33.14	31.18	40.81	44.41	40.78	38.62	37.45

平成27年度と比較すると、むし歯のある児童生徒の割合は、男女ともすべての学年で減少した。そのうち小学2・3年生男子、小学5年生男女で大きく減少した。

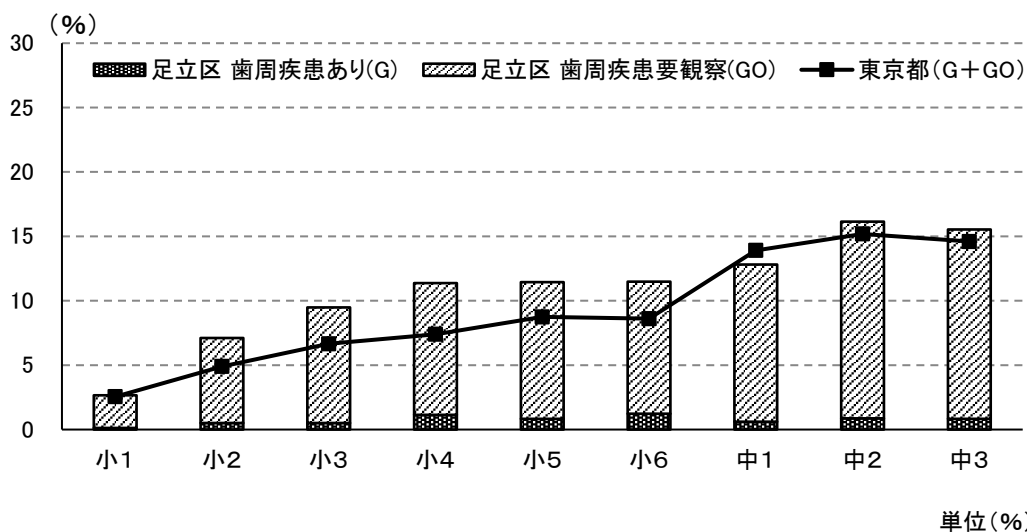
イ 歯肉に所見^{*}のある児童生徒の割合（※＝G：歯周疾患あり＋GO：歯周疾患要観察）

図34・表50 学年別割合および東京都比較 【男子】



		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	2.56	7.33	10.38	13.81	16.09	15.14	19.54	21.57	21.38
	東京都	2.32	5.17	7.49	9.23	10.87	11.53	19.51	19.99	21.20

図35・表51 学年別割合および東京都比較 【女子】



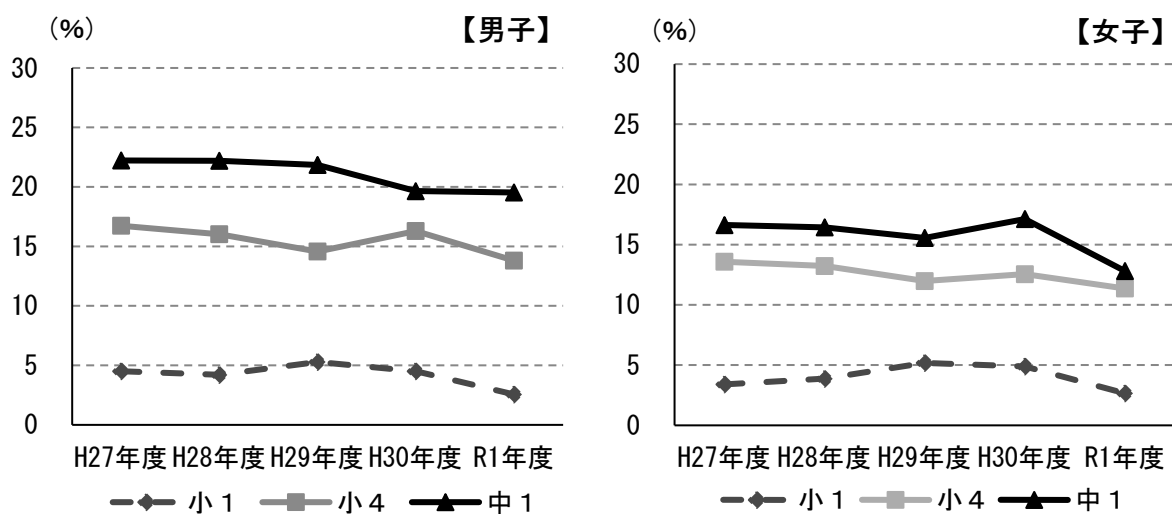
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	2.66	7.11	9.48	11.37	11.44	11.49	12.81	16.14	15.53
	東京都	2.56	4.90	6.66	7.40	8.74	8.61	13.91	15.19	14.59

男女を比較すると、歯肉に所見のある児童生徒の割合は、小学1年生を除き、すべての学年で男子の割合が多かった。

東京都と比較すると、中学1年生女子を除き、すべての学年で東京都平均を上回っていた。特に小学生は東京都平均を大幅に上回った学年が多かった。

表52・図36 歯肉に所見のある児童生徒（G+GO）の年次推移 単位（%）

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
小1	男子	4.50	4.20	5.28	4.50	2.56
	女子	3.40	3.87	5.19	4.89	2.66
小4	男子	16.74	16.02	14.57	16.29	13.81
	女子	13.59	13.23	11.98	12.55	11.37
中1	男子	22.23	22.20	21.85	19.65	19.54
	女子	16.63	16.44	15.56	17.13	12.81



男女とも学年が上がるにつれて所見のある割合が高かった。また、すべての学年において前年度と比べ減少した。

<参考> 足立区糖尿病対策アクションプラン「歯科口腔保健対策編」より

■ 永久歯のう蝕（う歯）予防

単位（%）

足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H28年	H29年	H30年	R1年
小1でむし歯のない子の割合	65	59.79	60.18	63.67	64.91
小4で永久歯にむし歯のない子の割合	87	85.06	85.97	86.94	87.24
中1で永久歯にむし歯のない子の割合	70	68.45	72.15	73.80	69.95

■ 歯肉炎の予防

単位（%）

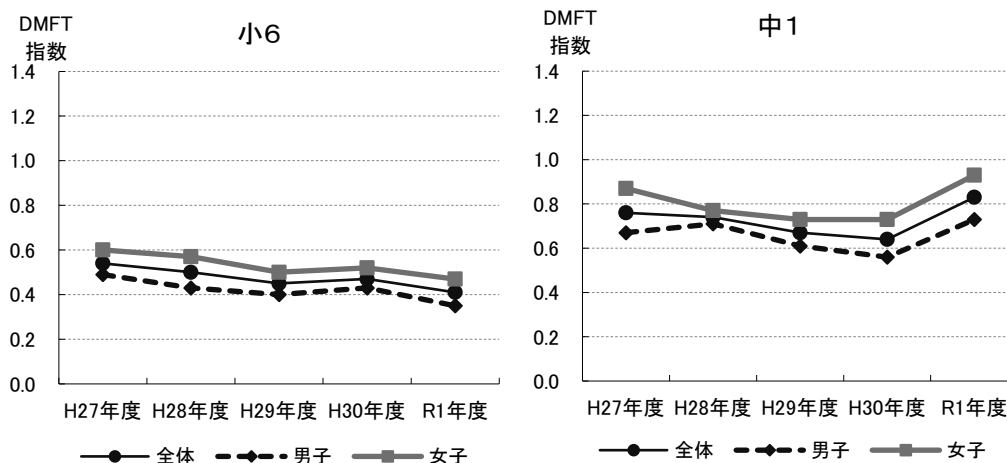
足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H28年	H29年	H30年	R1年
小4で歯肉に所見のない児童の割合	90	85.33	86.68	85.51	87.37
中1で歯肉に所見のない生徒の割合	84	80.65	81.31	81.58	83.73

ウ DMFT指数（1人平均永久歯のむし歯保有数）

永久歯の一人平均う歯経験歯数（DMFT指数）の算出方法	
DMFT指数とは永久歯のむし歯経験歯が、一人あたり何本あるかを示す数値	
D	……decayed：永久歯のむし歯で未処置の歯
M	……missing because of decayed：むし歯が原因で失った永久歯
F	……filled：永久歯のむし歯で処置を完了した歯
T	……teeth（歯）の頭文字
$\text{DMFT指数} = \frac{\text{受診者のDMFT歯の合計}}{\text{受診者数}}$	

表53・図37 DMFT指数 年次推移

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
小 6	総数	DMFT指数	0.54	0.50	0.45	0.47	0.41	
	う歯	喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		処置歯数(F)	0.35	0.31	0.29	0.31	0.24	
		未処置歯数(D)	0.19	0.18	0.17	0.17	0.17	
	男子	DMFT指数	0.49	0.43	0.40	0.43	0.35	
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		う歯	処置歯数(F)	0.31	0.26	0.25	0.28	0.20
	歯	未処置歯数(D)	0.18	0.16	0.15	0.15	0.15	
		女子	DMFT指数	0.60	0.57	0.50	0.52	0.47
			喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	う歯		処置歯数(F)	0.40	0.36	0.32	0.34	0.28
	歯	未処置歯数(D)	0.20	0.21	0.18	0.18	0.19	
中 1		総数	DMFT指数	0.76	0.74	0.67	0.64	0.83
		う歯	喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	処置歯数(F)		0.50	0.49	0.47	0.44	0.65	
	未処置歯数(D)		0.26	0.25	0.20	0.20	0.18	
	男子	DMFT指数	0.67	0.71	0.61	0.56	0.73	
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		う歯	処置歯数(F)	0.44	0.47	0.42	0.37	0.56
	歯	未処置歯数(D)	0.22	0.24	0.19	0.19	0.17	
		女子	DMFT指数	0.87	0.77	0.73	0.73	0.93
			喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	う歯		処置歯数(F)	0.56	0.51	0.52	0.51	0.73
	歯	未処置歯数(D)	0.31	0.25	0.21	0.22	0.20	



DMFT指数は、小学6年生は男女とも年々減少傾向にある。中学1年生は男女とも増加した。

4 脊柱側わん症検診

小・中学校児童生徒の脊柱異常の早期発見・適切な健康管理を図るため、下表の検診を実施している（足立区独自で実施の検診）。

表54 検診内容

第1次検診			第2次検診		
内容	対象者		内容	対象者	
モアレ撮影 (立位背面)	1) 小学5年・中学2年の全員 2) 前年度に次年度モアレ撮影となった者 3) 他学年抽出者		直接エックス線撮影 専門医の診察	1) 今年度要精密検査になった者 2) 前年度に次年度エックス線撮影となった者	

※ 他学年抽出者とは、定期健康診断で校医が必要と認めた者。

表55 第1次検診結果

単位（人）

区分	項目	受診者数			有所見者			有所見者の内訳									
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	病院管理			次年度モアレ再検査			要2次検診			
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	
小学生	小5	2,753	2,532	5,285	81	261	342	0	0	0	78	219	297	3	42	45	
	他学年	前年より	55	148	203	25	90	115	0	0	0	24	53	77	1	37	38
	1次受診	30	28	58	3	3	6	0	0	0	3	2	5	0	1	1	
中学生	中2	2,043	1,925	3,968	188	332	520	0	7	7	159	221	380	29	104	133	
	他学年	前年より	139	270	409	89	210	299	0	0	0	9	24	33	80	186	266
	1次受診	37	25	62	7	10	17	0	1	1	1	1	2	6	8	14	

表56 第2次検診結果

単位（人）

区分	項目	対象者数			受診者数			第2次検診結果										
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	要治療			要経過観察			次年度直接XP再検査			正常範囲 総数	
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数		
小学生	小5	3	42	45	3	35	38	0	4	4	0	20	20	2	8	10	4	
	他学年	前年より	1	40	41	0	34	34	0	3	3	0	14	14	0	11	11	6
	1次受診	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
中学生	中2	31	113	144	25	88	113	0	8	8	6	46	52	11	26	37	16	
	他学年	前年より	86	228	314	61	187	248	1	4	5	39	116	155	2	19	21	67
	1次受診	6	8	14	4	3	7	0	1	1	1	1	2	0	0	0	4	

※ 第2次検診の対象者は、前年の検診結果により第2次検診のみ再検査の者が含まれる。

男子より女子の方が、要治療、要経過観察者が多かった。

5 就学時健康診断

小学校への就学予定児を対象に、その心身の状態を把握し、健康上、適正な就学指導を行うため、毎年各小学校で健康診断を実施している。

表 5 7 就学時健康診断結果

単位 (人)

		男子	女子	計			
① 受診者数		2,509	2,351	4,860	—		
検査項目	② 栄養状態	栄養不良	0	0	0	0.00%	
		肥満傾向	14	4	18	0.37%	
	③ 脊柱異常	1	1	2	0.04%		
	④ 胸郭異常	2	2	4	0.08%		
	⑤ 裸眼視力0.3未満の者	44	35	79	1.63%		
	⑥ 難聴 (両耳)	43	58	101	2.08%		
	⑦ 眼の疾病及び異常	144	122	266	5.47%		
	⑧ 耳鼻咽喉疾患	510	407	917	18.87%		
	⑨ 皮膚疾患	56	43	99	2.04%		
	⑩ 心臓の異常	18	21	39	0.80%		
	⑪ 運動機能障害	0	1	1	0.02%		
	⑫ 身体虚弱	0	1	1	0.02%		
	⑬ その他の疾病及び異常	23	11	34	0.70%		
疾病⑭ 歯及び 口腔の 異常の	う 歯	乳 歯	処置完了者	405	395	800	16.46%
		未処置歯のある者	413	384	797	16.40%	
	永 久 歯	処置完了者	13	18	31	0.64%	
		未処置歯のある者	10	6	16	0.33%	
	不正咬合		89	106	195	4.01%	
	その他口腔の疾病及び異常		83	69	152	3.13%	

表 5 8 ・ 図 3 8 裸眼視力 0.3 未満の年次推移

単位 (%)

年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
男子	1.11	1.51	1.97	1.64	1.75
女子	1.05	1.13	1.19	1.42	1.49

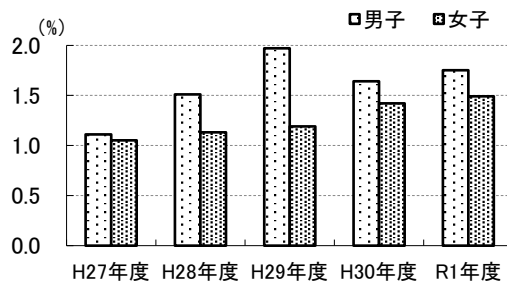
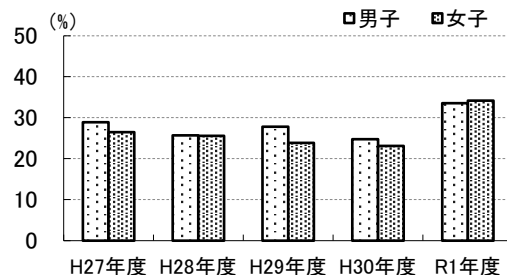


表 5 9 ・ 図 3 9 う歯有病率の年次推移

単位 (%)

年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
男子	28.87	25.67	27.77	24.75	33.52
女子	26.47	25.56	23.84	23.08	34.16



6 児童生徒の感染症り患状況

(1) 調査の概要

小・中学校の児童生徒を対象に、学校感染症による出席停止者数を調査している。流行の状態を把握し、感染症予防に役立てている。

(2) 月別患者数

表60 出席停止月別患者数 【小学生】 単位(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
第1種													
新型コロナウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2種													
インフルエンザ	216	166	189	3	0	131	116	305	2,098	1,529	1,219	0	5,972
百日咳	2	3	2	1	0	0	0	1	1	2	1	0	13
麻疹	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
流行性耳下腺炎	6	15	18	10	0	7	20	16	4	9	5	0	110
風疹	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
水痘	115	150	54	40	0	45	55	125	67	64	36	0	751
咽頭結膜熱	8	4	5	13	0	2	0	9	9	4	6	0	60
結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3種													
腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	3	5	9	3	0	2	4	7	5	5	2	0	45
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸チフス・パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
溶連菌感染症	133	206	251	116	0	98	126	237	250	169	200	0	1,786
手足口病	0	3	9	61	0	37	35	18	14	0	1	0	178
伝染性紅斑	23	31	26	23	0	8	5	4	4	4	3	0	131
ヘルパンギーナ	0	1	11	49	0	33	10	1	2	1	0	0	108
マイコプラズマ感染症	1	2	2	2	0	17	28	69	63	39	15	0	238
その他													
感染性胃腸炎	136	121	134	68	0	43	65	71	118	120	112	0	988
ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯状疱疹	0	1	0	3	0	1	2	2	0	0	2	0	11
海外からの帰国・入国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5
発熱等の風邪症状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	57
その他	4	5	2	2	0	11	3	1	8	2	0	0	38
月計	649	714	712	395	0	435	469	866	2,644	1,948	1,663	1	10,496

表61 出席停止月別患者数 【中学生】 単位(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
第1種													
新型コロナウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2種													
インフルエンザ	33	19	0	0	0	12	4	70	440	435	230	0	1,243
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	1	4	0	0	1	0	2	1	0	0	0	9
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水痘	8	4	1	1	0	5	3	11	6	3	1	0	43
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3種													
腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	4	1	0	2	0	0	1	2	1	0	0	0	11
急性出血性結膜炎	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
溶連菌感染症	9	11	9	6	0	12	12	13	13	14	12	0	111
手足口病	0	0	0	5	0	3	2	5	0	2	0	0	17
伝染性紅斑	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
ヘルパンギーナ	0	3	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0	10
マイコプラズマ感染症	0	0	1	4	0	6	1	8	6	6	4	0	36
その他													
感染性胃腸炎	23	34	41	32	0	13	38	31	46	54	39	0	351
ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯状疱疹	0	1	0	0	0	1	1	1	4	2	1	0	11
海外からの帰国・入国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	21
発熱等の風邪症状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	28
その他	0	0	1	0	0	6	2	4	0	1	1	0	15
月計	79	78	59	55	0	62	64	147	518	517	337	0	1,916

※ 令和2年2月1日より新たに新型コロナウイルス感染症が指定感染症と指定されたことから、関連する出席停止を第一種感染症又は第三種感染症その他として集計した。
 令和2年3月に一斉臨時休業措置をとっているが、卒業式等の出席すべき日に出席停止項目で欠席した場合には、出席停止者数に計上した。

(3) 過去3年間の主な感染症り患状況

※グラフは8月除く

図40 インフルエンザ(小学生)

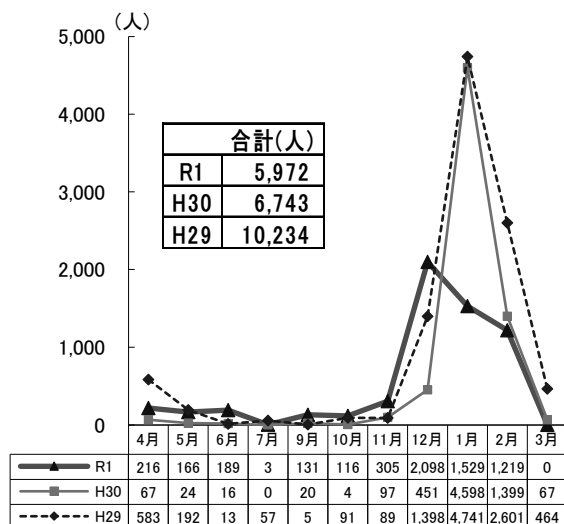
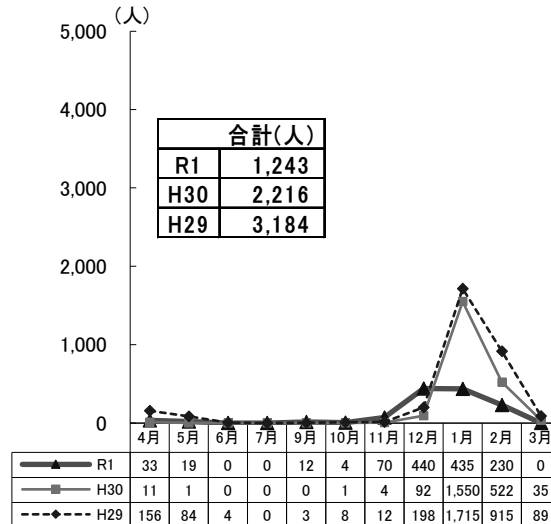


図41 インフルエンザ(中学生)



インフルエンザのり患者数は、12月をピークに1・2月は過去2年の同時期に比べ大きく減少した。

図42 溶連菌感染症(小学生)

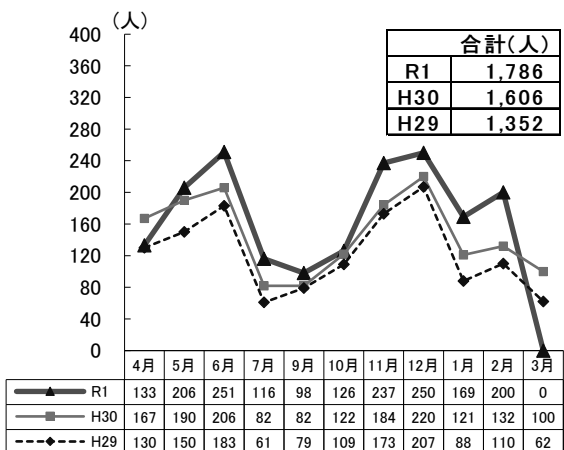
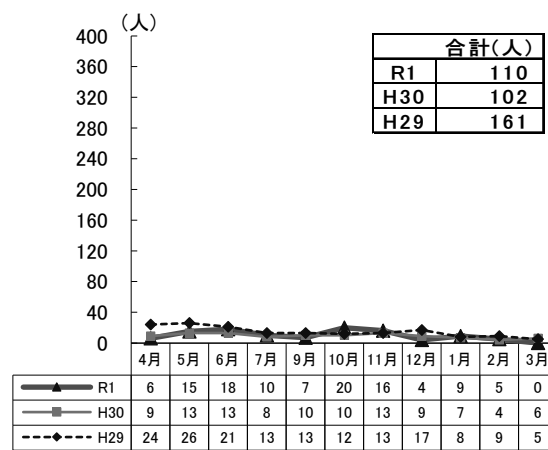


図43 流行性耳下腺炎(小学生)



小学生の溶連菌感染症・流行性耳下腺炎ともに前年度と流行時期が類似していた。り患者数は、溶連菌感染症は増加した。

7 学校管理下における災害統計

災害統計は、小・中学校の管理下における児童生徒の負傷および熱中症等事故の発生状況のまとめである。

(1) 災害発生状況

令和元年度は令和2年3月に一斉臨時休業措置をとっている。

表62 災害発生件数および発生率

単位 在籍数(人) / 件数(件)

	小学生			中学生			合計		
	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率
H27年度	31,322	988	3.15%	14,307	597	4.17%	45,629	1,585	3.47%
H28年度	31,434	915	2.91%	14,070	589	4.19%	45,504	1,504	3.31%
H29年度	31,393	807	2.57%	13,822	552	3.99%	45,215	1,359	3.01%
H30年度	31,668	792	2.50%	13,434	509	3.79%	45,102	1,301	2.88%
R1年度	31,507	819	2.60%	13,345	566	4.24%	44,852	1,385	3.09%

※ 災害件数には、疾病件数(令和元年度は小学校60件、中学校:53件)を含む。

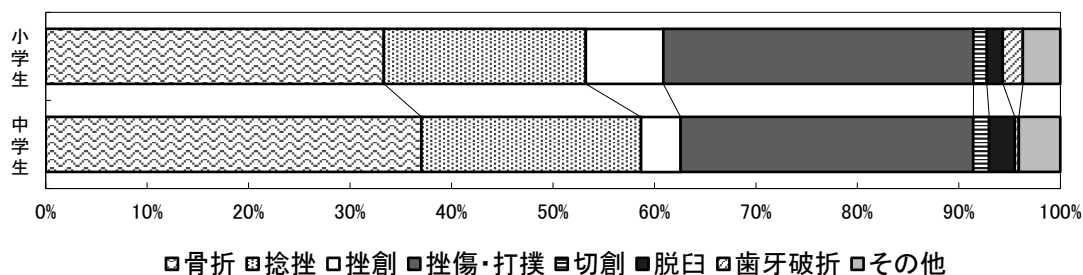
※ 在籍数は各年度5月1日現在の人数。

過去5年間の災害発生件数および発生率は、小学生・中学生ともに横ばいであった。

表63・図44 負傷の種類

単位(件)

種類		骨折	捻挫	挫創	挫傷・打撲	切創	脱臼	歯牙破折	その他	合計
小学生	件数	253	151	58	232	10	12	15	28	759
	割合	33.33%	19.89%	7.64%	30.57%	1.32%	1.58%	1.98%	3.69%	100.0%
中学生	件数	190	111	20	148	8	13	2	21	513
	割合	37.04%	21.64%	3.90%	28.85%	1.56%	2.53%	0.39%	4.09%	100.0%
合計	件数	443	262	78	380	18	25	17	49	1,272
	割合	34.83%	20.60%	6.13%	29.87%	1.42%	1.97%	1.34%	3.85%	100.0%

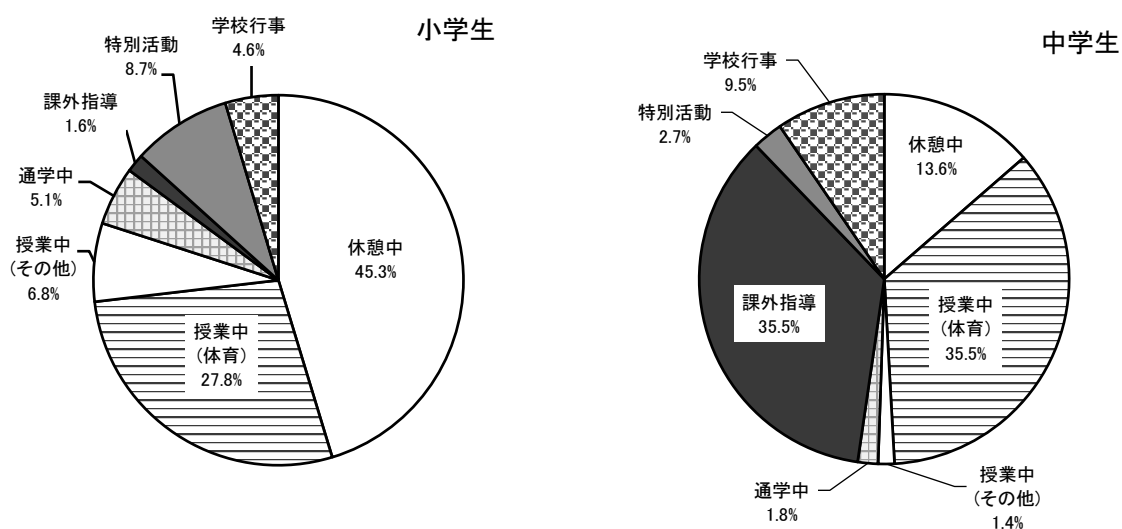


小学生・中学生ともに骨折が最も多かった。

表 6 4 ・ 図 4 5 災害発生時の活動状況 単位 (件)

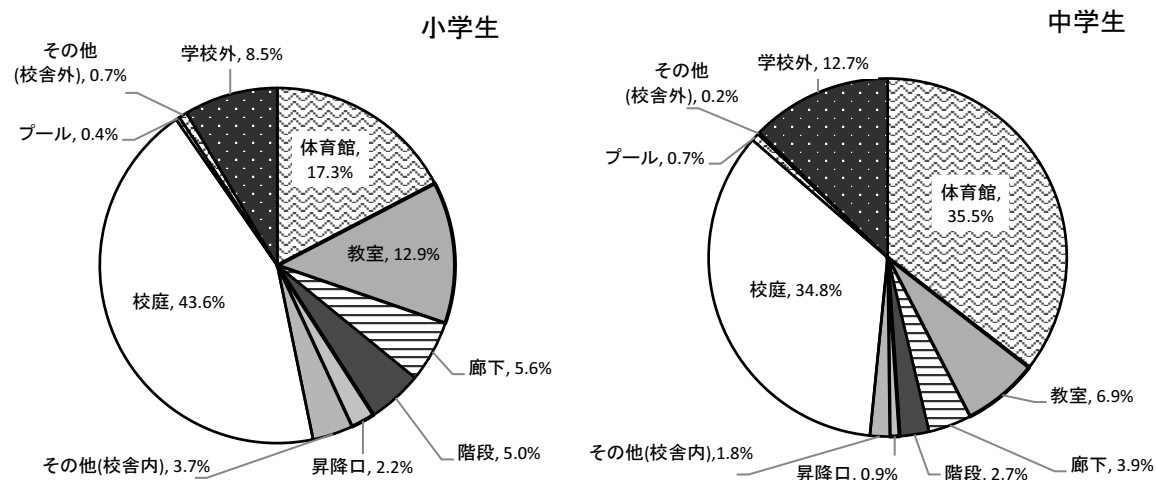
時間帯		休憩中	授業中		通学中	課外指導	特別活動	学校行事	合計
			体育	その他					
小学生	件数	371	228	56	42	13	71	38	819
	割合	45.30%	27.84%	6.84%	5.13%	1.59%	8.67%	4.64%	100.0%
中学生	件数	77	201	8	10	201	15	54	566
	割合	13.60%	35.51%	1.41%	1.77%	35.51%	2.65%	9.54%	100.0%
合計	件数	448	429	64	52	214	86	92	1,385
	割合	32.35%	30.97%	4.62%	3.75%	15.45%	6.21%	6.64%	100.0%

※ 休憩中 … 始業前、放課後等を含む。
 課外指導 … 部活動、林間学校、水泳指導など。



小学生は休憩中の災害、中学生は体育の授業中・課外指導での災害が多かった。

図 4 6 災害発生時の場所

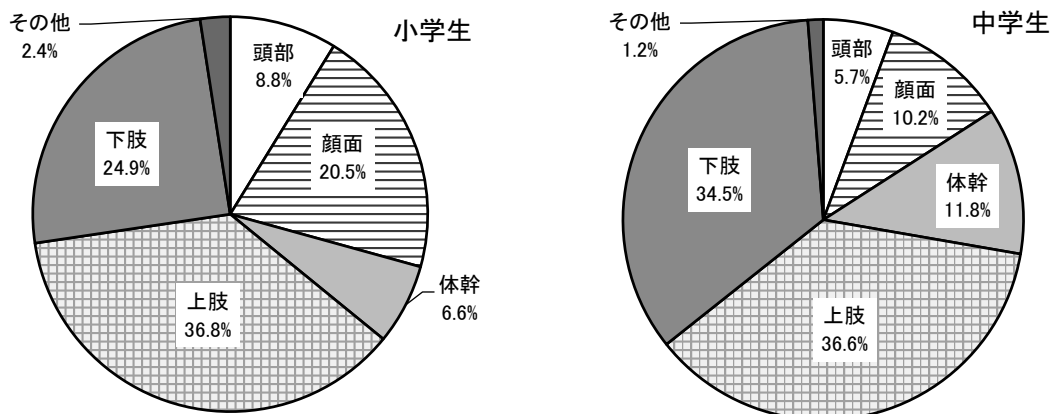


小学生は校庭、中学生は体育館・校庭での災害が多かった。

表 6 5 ・ 図 4 7 災害の部位別発生状況

単位 (件)

		部位別						合計
		頭 部	顔 面	体 幹	上 肢	下 肢	その他	
小学生	件数	72	168	54	301	204	20	819
	割合	8.79%	20.51%	6.59%	36.75%	24.91%	2.44%	100.0%
中学生	件数	32	58	67	207	195	7	566
	割合	5.65%	10.25%	11.84%	36.57%	34.45%	1.24%	100.0%
合計	件数	104	226	121	508	399	27	1,385
	割合	7.51%	16.32%	8.74%	36.68%	28.81%	1.95%	100.0%

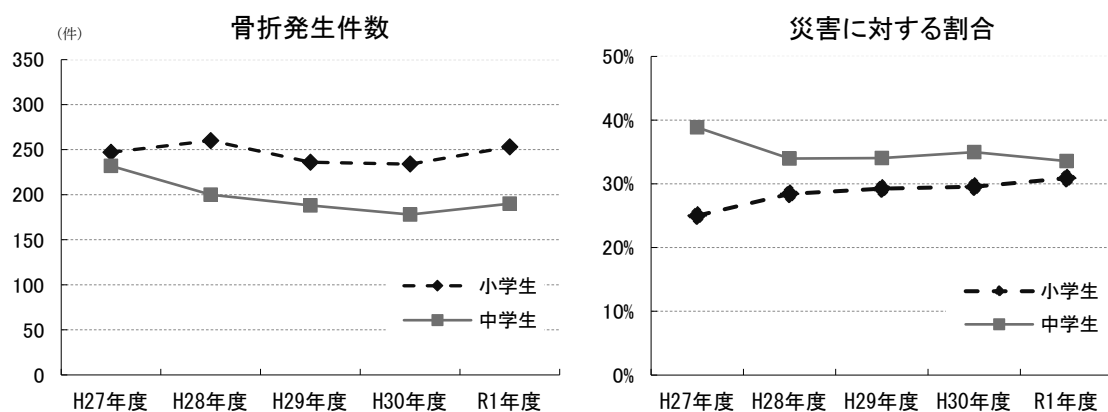


小学生、中学生ともに上肢を負傷する災害が最も多かった。

表 6 6 ・ 図 4 8 骨折発生件数および発生率の推移

単位 (件)

	小学生			中学生			合計		
	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合
H27年度	247	0.79%	25.00%	232	1.62%	38.86%	479	1.05%	30.22%
H28年度	260	0.83%	28.42%	200	1.42%	33.96%	460	1.01%	30.59%
H29年度	236	0.75%	29.24%	188	1.36%	34.05%	424	0.93%	31.19%
H30年度	234	0.74%	29.55%	178	1.32%	34.97%	412	0.91%	31.67%
R1年度	253	0.80%	30.89%	190	1.42%	33.57%	443	0.99%	31.99%



小学生、中学生ともに骨折発生数は前年度に比べ増加したが、災害に対する割合は小学生のみやや増加した。

(2) 災害共済掛金および給付状況

表 6 7 災害共済掛金 単位 (円)

	掛 金 額
小学校	27,962,460
中学校	12,009,125
合 計	39,971,585

表 6 8 給付件数・金額

単位：件数 (件) / 金額 (円)

	小学校		中学校		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金額
死亡見舞金	0	0	1	14,000,000	1	14,000,000
障害見舞金	0	0	0	0	0	0
医療費給付	1,463	11,497,688	1,265	10,235,621	2,728	21,733,309
供 花 料	0	0	0	0	0	0
合 計	1,463	11,497,688	1,266	24,235,621	2,729	35,733,309

表 6 9 医療費別給付状況

単位：件数 (件) / 金額 (円)

種類 月	小学校		中学校		合計	
	件 数	給付金額	件 数	給付金額	件数	金額
4	172	1,181,264	82	627,355	254	1,808,619
5	182	1,060,123	142	14,810,348	324	15,870,471
6	91	545,131	91	550,554	182	1,095,685
7	103	1,088,203	113	890,815	216	1,979,018
8	134	933,496	162	1,670,982	296	2,604,478
9	115	1,055,541	100	865,397	215	1,920,938
10	37	394,503	35	518,607	72	913,110
11	105	627,450	133	1,319,331	238	1,946,781
12	112	797,651	105	1,133,914	217	1,931,565
1	119	821,858	77	499,711	196	1,321,569
2	139	1,666,476	87	462,935	226	2,129,411
3	154	1,325,992	139	885,672	293	2,211,664
合 計	1,463	11,497,688	1,266	24,235,621	2,729	35,733,309

災害1件あたりの平均給付金額

¥25, 800-

災害1件あたりの平均給付金額＝合計給付金額／災害発生件数(給付件数ではない)
「負傷の種類」や「災害発生時の活動状況」等の数字は“負傷”の件数で“疾病”の件数は入っていない。
災害発生件数は“負傷”件数＋“疾病”件数である。

【資料1】 貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準

1 『項目別判定』及び『コメント』

(1) 小児生活習慣病予防健診

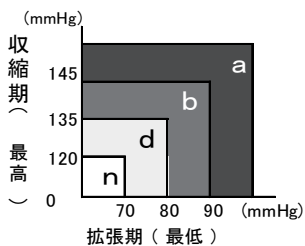
① 肥満(肥満度)

肥満度は、年齢・性別・身長別の標準体重から算出する。

肥満度(%)	判 定	
50.0%以上	a	かなりの肥満
30.0 ~ 49.9%	b	肥 満
20.0 ~ 29.9%	c	肥 満 ぎ み
-19.9 ~ 19.9%	n	正常体格群
-20.0%以下	y	やせすぎ傾向

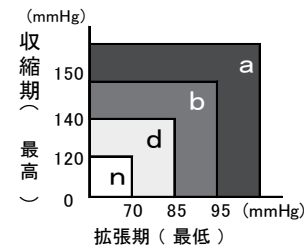
② 血圧

小学生【男女】と中学生【女】



a : 高血圧
b : 軽度の高血圧

中学生【男】と高校生【男女】



d : 正常範囲だがやや高め
n : 正常範囲

③ 血清脂質

(ア) 総コレステロールとHDLコレステロール

総コレステロール (mg/dl)	HDLコレステロール (mg/dl)	
	≥ 40	>
280	a	a
240	b	a
220	c	b
190	d	c
	n	d

(イ) LDLコレステロール

190 mg/dl 以上	a
160 ~ 189 mg/dl	b
140 ~ 159 mg/dl	c
110 ~ 139 mg/dl	d
109 mg/dl 以下	n

a : 血清脂質の値にかなり異常
b : 血清脂質の値に異常
c : 血清脂質の値に異常傾向
d : 血清脂質の値にやや異常傾向
n : 正常範囲

血清脂質判定において、(ア)と(イ)の判定が異なるときはより重い方の判定を採択し、両者が同一判定区分であれば(aとn、nとnを除く)1ランク上の重い判定とする。

(2) 貧血検査

性別・年齢別の基準値 ※平成29年度に基準値・分類を変更。

		白血球数(/mm ³)	
男女	全員	3,000 ~ 12,900	
男子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13・14歳		12.1 ~ 17.0
	15歳		12.6 ~ 18.0
	16歳以上		13.1 ~ 18.0
女子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13歳以上		12.0 ~ 16.0

平均赤血球容積(FI) 75.0 ~ 99.9

2 『総合判定区分』及び『指導コメント』

I-1	糖尿病が(a)	要医学的管理	引き続き専門医を受診してください。
I-2	1項目でも(a)※I-1除く	要医学的管理	専門医に相談してください。
I-3	(a)は無いが「血圧」「脂質」共に(b)	要医学的管理	専門医に相談してください。
II	(a)は無いが1項目でも(b)	要経過観察	医師や学校の先生・保護者の方などと相談し、バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。6ヶ月~1年後には再検査を受けてください。
III	(a)(b)はないが1項目でも(c)	要生活指導	バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。
IV	(a)(b)(c)はないが1項目でも(d)	管理不要	今後とも、正しい生活習慣を心がけてください。※次回の健診時にいろいろな検査項目の変化にもよく注意してみましょう。
n	すべての項目が(n)	正 常	今回の健診結果では特に異常はありませんでした。現在のよい状態を続けるよう心がけてください。

3 ヘモグロビンA1cの判定基準

高 値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0~6.4%	医療機関(かかりつけ医、学校医)で再検査(空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査)をお勧めします。
正常範囲	d	5.6~5.9%	正常高値です(2年生は来年度、学校で再検査)。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

【資料2】 定期健康診断疾病異常調査の概要

1 調査の内容

学校保健安全法による定期健康診断の結果から、区立小・中学校の児童生徒の健康実態を把握することを目的に調査を実施している。

(1) 対象

区立小・中学校における令和元年度定期健康診断を受診した児童生徒全員

(2) 項目

学校保健安全法に基づく定期健康診断における検査項目及び、その他、児童生徒の健康実態を把握するために必要な事項

- ア 児童生徒の発育状態（身長・体重・肥満度）
- イ 疾病異常調査 調査項目の詳細については、次頁参照

(3) 期間

平成31年4月～令和元年6月末日（学校保健安全法による定期健康診断実施時期）

(4) 方法

- ア 児童生徒の発育状態
各小・中学校から「身体計測(身長・体重)及び肥満度報告」を回収し、集計する。
- イ 疾病異常調査
各小・中学校から「定期健康診断疾病異常調査票」を回収、集計し東京都へ報告する。

※ 疾病異常調査データの集計は、末巻に掲載【資料3（A3版）】

本報告書では、この資料を元に東京都との比較、年次推移等の加工データを掲載している。

学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令（平成26年文部科学省令第21号）

平成26年4月30日公布

児童生徒等の健康診断に係る改正規定 平成28年4月1日から施行

【改正に伴う平成28年度からの変更点】

- (1) 座高の検査について、必須項目から削除
- (2) 寄生虫卵の有無の検査について、必須項目から削除
- (3) 「四肢の状態」を必須項目として加えるとともに、四肢の状態を検査する際は、四肢の形態及び発育並びに運動器の機能の状態に注意することを規定すること→運動器検診の実施
- (4) 色覚検査について、積極的な周知をし、希望者には適切に検査ができる体制を整えること→色覚検査を希望者へ実施（小学4年生、中学1年生）

2 令和元年度 定期健康診断疾病異常調査 調査項目

No.	項目	調査内容	調査対象者	
1	1在籍者数	5月1日現在の学年別在籍者数	全員	
2	2受診者数	各学年毎の定期健康診断受診者数(以下の3栄養状態、4脊柱胸郭、9皮膚疾患、13その他の各項目をすべて受診した者)	全員	
3	3栄養状態	(1)栄養不良	学校医により栄養不良で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
4		(2)肥満傾向	学校医により肥満傾向で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
5	4脊柱胸郭 四肢	疾病・異常者数	以下の(1)脊柱側弯症・脊柱異常、(2)胸郭異常、(3)四肢異常のいずれかが、異常と判定された者の人数 1人が(1)から(3)で複数の異常がある場合は1人と数える	全員
6		(1)脊柱側弯症・脊柱異常	脊柱側弯症、脊柱側弯など脊柱の異常と判定された者	全員
7		(2)胸郭異常	胸郭異常と判定された者	全員
8		(3)四肢異常	四肢異常と判定された者	全員
9	5視力	裸眼視力	裸眼視力を測定した者の数。以下(1)～(4)及び「眼鏡・コンタクト着用者」は裸眼視力を測定した者のみが対象。左右それぞれの測定値の低い方。	全員
10		(1)1.0以上	低い方の視力が1.0以上と判定された者	全員
11		(2)1.0未満0.7以上	低い方の視力が0.9から0.7と判定された者	全員
12		(3)0.7未満0.3以上	低い方の視力が0.6から0.3と判定された者	全員
13		(4)0.3未満	低い方の視力が0.2以下と判定された者	全員
14		(1)～(4)のうち、眼鏡・コンタクト着用者	裸眼視力測定者のうち、眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしている者	全員
15	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者	眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしているため、裸眼視力を測定できず、矯正視力のみ測定した者	全員	
16	6眼疾患	受診者	全員	
17	疾病・異常者数	以下の(1)感染性眼疾患、(2)アレルギー性眼疾患、(3)その他の眼疾患のいずれかと判定された者の人数	全員	
18		(1)感染性眼疾患	咽頭結膜炎、流行性角結膜炎、出血性結膜炎と判定された者	全員
19		(2)アレルギー性眼疾患	ここ1年以内に、アレルギー性結膜炎、春季カタル、花粉症などのアレルギー性の眼疾患と判定された者	全員
20		(3)その他の眼疾患	感染性眼疾患、アレルギー性眼疾患以外の眼疾患・異常のある者。疑似トラコーマ、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、睫毛内反(さかさまつげ)、先天性の色素不足による金銀眼、片目失明などの疾患・異常と判定された者。また視力低下の原因となる疾患・異常(例えば網膜色素変性、緑内障)を含むが、近視、遠視、乱視などの屈折異常は除く。	全員
21	7聴力	受診者	小学1～3年・5年 中学1年・3年	
22		難聴	オージオメーターを使用して検査をした場合、両耳とも1,000ヘルツにおいて30デシベル又は4,000ヘルツにおいて25デシベル相当の音が聴取できない者	小学1～3年・5年 中学1年・3年
23	8耳鼻咽喉科疾患	受診者	全員	
24		(1)耳疾患	難聴以外の耳疾患・異常の者。例えば急性又は慢性中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳介の欠損、耳垢栓塞等の疾患・異常と判定された者	全員
25		(2)鼻・副鼻腔疾患	以下の「ア アレルギー性鼻疾患」、「イ その他の鼻・副鼻腔疾患」のいずれかと判定された者の人数 1人がア及びイの両方の疾患がある場合は1人と数える	全員
26		ア アレルギー性鼻疾患	ここ1年以内に、アレルギー性鼻炎、花粉症などの鼻のアレルギー性疾患と判定された者	全員
27		イ その他の鼻・副鼻腔疾患	鼻アレルギー以外の鼻・副鼻腔疾患・異常の者。例えば慢性副鼻腔炎(蓄膿症)、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、鼻中隔湾曲等。ただし感冒による一時的な鼻炎等の疾患・異常と判定された者は除く。	全員
28		(3)口腔咽喉頭疾患	アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常などの疾患・異常と判定された者。ただし感冒による一時的な咽頭炎などの疾患・異常と判定された者は除く。	全員
29	9皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患	白癬、疥癬、その他の感染性皮膚疾患と判定された者	全員
30		(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)	ここ1年以内に、アトピー性皮膚炎と判定された者	全員
31		(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)	ここ1年以内に、蕁麻疹や薬疹、接触皮膚炎などのアトピー性皮膚炎以外のアレルギー性皮膚疾患と判定された者	全員
32		(4)その他の皮膚疾患	上記、(1)感染性皮膚疾患、(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)、(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)以外の皮膚疾患と判定された者	全員

※令和元年度学校保健統計調査実施通知より

【資料2】 定期健康診断疾病異常調査の概要

No.	項 目		調 査 内 容	調 査 対 象 者	
33	10結核	受診者	結核検診(問診及び学校医による診察)を受けた者の数	全員	
34		(1)結核患者	結核患者と判定された者。個人的に医師の診察を受けて結核と診断された者を含む。潜在性結核を除く。	全員	
35		(2)精密検査対象者	結核検診の結果、ツベルクリン反応検査、エックス線撮影などの精密検査の対象となった者	全員	
36	11心臓	受診者(心電図検査)	心電図検査の受診者数	小学1年 中学1年	
37		(1)心臓疾患	心膜炎、心包炎、心内膜炎、弁膜症、狭心症、心臓肥大、その他の心臓疾患・異常の者。心電図異常のみの者は含まない。	全員	
38		(2)心電図異常	心電図検査の結果で二次検診の対象となった者	小学1年 中学1年	
39	12検尿	受診者		全員	
40		(1)尿蛋白検出	第一次検査の結果、尿蛋白が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員	
41		(2)尿糖検出	第一次検査の結果、尿糖が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員	
42	13その他	(1)気管支喘息	ここ1年以内に、気管支喘息と判定された、または医療機関で経過観察管理中の者	全員	
43		(2)腎臓疾患	急性及び慢性腎炎、ネフローゼ症候群などの腎疾患と判定された者	全員	
44		(3)言語障害	話し言葉の働きに障害のある者をいい、例えば、吃音(どもり)、発音の異常、発声の異常(聞きつき手が理解しにくい程度の発音や声の障害)、口蓋裂、脳性麻痺等に伴う言葉の異常、難聴によるこがれつ発音の異常、その他情緒的原因による緘黙症、自閉症や言語中枢に障害のある失語症である。 この調査のいずれの項目にも該当しない疾病・異常	特別支援学校 以外全員	
45		(4)その他の疾病・異常		特別支援学校 以外全員	
46	14歯科	(1)歯科受診者	歯及び口腔の検査を受けた者の数	全員	
47		(2)う歯・乳歯または永久歯のう歯	ア 処置完了者	乳歯又は永久歯にう歯(COは入れない)がある者のうち、全部のう歯の処置が完了している者	全員
48			イ 未処置歯のある者	乳歯又は永久歯にう歯(COは入れない)がある者のうち、処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員
49			ウ 永久歯のう歯経験者	永久歯のう歯について、処置が完了している者、及び処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員
50		エ 乳歯または永久歯に要観察歯のある者	乳歯又は永久歯に要観察歯(CO)が1本以上ある者	全員	
51		(3)歯肉の状態	ア 歯周疾患	「歯肉の状態」が2と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員
52			イ 歯周疾患要観察者	「歯肉の状態」が1と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員
53		(4)歯列・咬合の異常	「歯列・咬合」が2と判定された者	全員	
54		(5)顎関節の異常	「顎関節」が2と判定された者	全員	
55		(6)歯垢の状態	歯に相当の付着がある者をいう。小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校については、各学校種の歯・口腔の健康診断票において、「歯垢の状態」が「2」(相当の付着がある)と判定された者。	全員	
56	(7)その他の歯・口腔の疾病・異常	「その他の疾病及び異常」欄に記載のある者 ※むし歯や歯周疾患、歯列・咬合および顎関節以外の歯・口腔の疾患・異常(例えば、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂(こがれつ)、舌小帯異常、だ石、癒合歯、過剰歯、先天性欠如の疑い、エナメル質形成不全等)が該当する。歯石や歯垢は含まない。	全員		
57	(8)永久歯のう歯の内容	ア 未処置歯数(D)	未処置歯の数	小学6年 中学1年	
58		イ う歯による喪失歯数(M)	う歯が原因で脱落したり、抜去した永久歯の本数。 ※外傷や矯正治療のために抜歯した歯及び抜歯理由や欠損の原因が不明のものは対象外なので、抜歯理由をよく確認すること。	小学6年 中学1年	
59		ウ 処置歯数(F)	処置歯の数	小学6年 中学1年	
60	15備考				

※「疾病・異常者」の取扱いについて

「疾病・異常者数」の各欄には、学校における健康診断で実施された検査項目で学校医又は学校歯科医が疾病・異常と判定した者の人数を入力します。しかし、アレルギー性眼疾患やアレルギー性鼻疾患、アレルギー性皮膚疾患、喘息などのアレルギー性疾患は必ずしも健康診断時に症状が出ているわけではありません。結核患者、心臓疾患、腎臓疾患等も診察のみでは必ずしも診断できません。

健康診断の結果、疾病・異常と判定されなかったが、医療機関において、医師から疾病・異常と診断されており、その旨を学校で把握している者も「疾病・異常者」として取り扱います。ただし、治療後など、疾病・異常の疑いがなく、単に「経過観察」と判定された場合には、疾病・異常者には計上しません。

【資料3】 定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計（実数）

	男									女										
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
1 在籍者数	2,604	2,638	2,600	2,744	2,795	2,773	2,342	2,175	2,244	2,541	2,572	2,566	2,560	2,555	2,551	2,188	2,064	2,280		
2 受診者数	2,589	2,616	2,573	2,721	2,761	2,752	2,263	2,054	2,138	2,529	2,553	2,555	2,544	2,543	2,522	2,104	1,950	2,165		
3 栄養状態	(1)栄養不良	0	1	1	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	3	5	0	0	0	
	(2)肥満傾向	44	47	67	125	125	107	45	26	28	27	28	61	55	48	64	15	17	15	
4 脊柱胸郭四肢	疾病・異常者数	13	12	18	25	22	25	25	28	7	13	18	22	18	32	27	36	38		
	(1)脊柱側弯症・脊柱異常	6	7	12	14	13	15	14	14	21	5	6	14	11	7	16	22	28	38	
	(2)胸郭異常	1	0	2	2	3	2	5	6	3	0	0	0	2	3	4	0	0	0	
	(3)四肢異常	7	5	4	10	6	8	6	7	4	2	7	4	9	8	12	5	8	3	
5 視力	裸眼	裸眼視力測定者 (1)~(4)の合計																		
	視力	2,568	2,588	2,514	2,570	2,545	2,476	2,104	1,835	1,826	2,509	2,520	2,477	2,401	2,322	2,226	1,851	1,639	1,587	
	(1)1.0以上	1,820	1,806	1,632	1,691	1,596	1,465	1,058	820	743	1,702	1,627	1,505	1,282	1,135	1,017	792	551	562	
	(2)1.0未満0.7以上	500	428	387	320	316	297	299	217	249	558	460	411	382	375	283	258	211	198	
	(3)0.7未満0.3以上	205	259	348	352	383	403	351	370	355	207	332	379	485	464	488	347	393	349	
	(4)0.3未満	43	95	147	207	250	311	396	428	479	42	101	182	252	348	438	454	484	478	
	裸眼視力測定者のうち眼鏡・コンタクト装用者																			
	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者																			
6 眼疾患	受診者	2,580	2,612	2,569	2,715	2,754	2,720	2,264	2,041	2,117	2,512	2,542	2,529	2,534	2,527	2,506	2,135	1,927	2,152	
	疾病・異常者数	204	251	263	231	269	244	167	144	142	163	172	219	214	221	206	120	81	125	
	(1)感染性眼疾患	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	1	0	1	0	0	
	(2)アレルギー性眼疾患	137	173	203	198	227	212	105	97	109	97	138	164	167	182	175	81	54	91	
	(3)その他の眼疾患	83	99	87	59	82	66	69	56	42	85	56	80	71	66	58	50	36	37	
7 聴力	受診者	2,596	2,629	2,586	2,773	2,773	2,303	2,172	2,172	2,540	2,568	2,562	2,549	2,549	2,165	2,165	2,189	2,189		
	難聴	28	8	13	7	7	11	13	13	23	22	7	11	11	8	19	19	19		
8 耳鼻咽喉科疾患	受診者	2,578	2,615	2,569	2,707	2,743	2,717	2,248	2,035	2,123	2,523	2,549	2,544	2,528	2,518	2,511	2,133	1,947	2,141	
	(1)耳疾患	244	217	186	185	195	186	227	181	159	272	214	167	171	156	152	130	98	101	
	(2)鼻・副鼻腔疾患	352	412	430	441	474	456	299	230	288	238	230	247	240	282	235	161	165	235	
	ア アレルギー性鼻疾患	224	281	355	359	392	387	203	182	216	155	163	202	209	238	215	125	125	181	
	イ その他の鼻・副鼻腔疾患	162	164	123	138	136	126	98	52	81	98	87	71	67	74	57	42	45	58	
(3)口腔咽喉頭疾患	15	13	8	12	8	5	4	2	1	21	10	6	8	6	1	3	2	1		
9 皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患	1	0	1	1	0	1	0	0	0	3	6	9	6	7	6	0	0	0	
	(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)	92	100	105	87	102	105	49	21	35	85	67	90	79	64	62	25	21	16	
	(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)	5	4	1	1	0	2	7	6	2	10	10	0	2	2	2	6	7	10	
	(4)その他の皮膚疾患	33	32	39	24	30	27	4	4	3	25	22	19	23	14	8	3	4	1	
10 結核	受診者	2,601	2,633	2,598	2,741	2,784	2,763	2,313	2,124	2,196	2,540	2,570	2,564	2,557	2,552	2,545	2,176	2,013	2,231	
	(1)結核患者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2)精密検査対象者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0		
11 心臓	受診者(心電図検査)	2,589	2,616	2,573	2,721	2,761	2,752	2,263	2,054	2,138	2,529	2,553	2,555	2,544	2,543	2,522	2,104	1,950	2,165	
	(1)心臓疾患	23	26	22	14	16	18	17	6	7	19	17	23	18	18	13	11	16	8	
(2)心電図異常	31	29	29	29	29	29	29	29	29	16	16	16	16	16	16	16	16	16		
12 検尿	受診者	2,600	2,634	2,597	2,738	2,781	2,765	2,316	2,107	2,191	2,538	2,565	2,563	2,555	2,551	2,540	2,170	2,008	2,216	
	(1)尿蛋白検出	6	5	9	5	11	27	59	78	88	10	12	10	16	33	31	39	42	36	
	(2)尿糖検出	1	1	1	1	1	1	3	4	1	2	1	0	0	1	2	1	5	2	
13 その他	(1)気管支喘息	100	123	128	120	120	119	81	65	76	77	85	79	74	91	74	38	42	43	
	(2)腎臓疾患	5	12	5	7	5	10	8	8	10	12	11	12	9	18	11	11	6	14	
	(3)言語障害	4	5	5	4	5	3	5	1	4	1	3	1	3	1	1	1	2	3	
	(4)その他の疾病・異常	19	16	10	17	22	14	60	44	66	15	21	12	16	11	9	34	26	39	
14 歯科	(1)歯科受診者	2,575	2,593	2,583	2,716	2,760	2,734	2,267	2,058	2,133	2,523	2,546	2,553	2,541	2,534	2,516	2,139	1,952	2,176	
	(2)う歯	乳歯又は永		ア 処置完了者																
	・要観	久歯のう歯		イ 未処置歯のある者																
	察歯	ウ 永久歯のう歯経験者		エ 乳歯又は永久歯に要観察歯のある者																
	(3)歯肉	ア 歯周疾患		イ 歯周疾患要観察者																
	の状態																			
	(4)歯列・咬合の異常																			
	(5)顎関節の異常																			
	(6)歯垢の状態																			
	(7)その他の歯・口腔の疾病・異常																			
	(8)永久歯の	ア 未処置歯数(D)		398																
	う歯の内容	イ う歯による喪失歯数(M)		10																
		ウ 処置歯数(F)		556																

【資料3】 定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計

令和元年度足立区の学校保健統計書

令和2年12月 発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区学校運営部学務課

足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5971

印刷 株式会社 イマイシ

「美しいまち」は
「安全なまち」



ビューティフル・ウィンドウズ運動展開中
足立区